

V. 教員の研究教育・社会貢献活動

(2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日)

【超領域文化論講座】

ガデミ アミン (GHADIMI Amin) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 超超域文化論 A・B

〈共通教育担当科目〉 総合英語 (Liberal Arts & Sciences, Academic Skills)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 近代日本史・文化史・思想史

[研究業績]

〈論文〉

・ “Washida Kiyokazu’s Paradoxes of Property and the Clinical Philosophy of Ḥuqúqu’llāh,” *Cultural Formation Studies* 7 (2025), pp. 29-69.

・ “Slaveholder Rebellions without Slavery in Early Meiji Japan,” *Transnational Studies in Africa and Japan* 8 (2025), pp. 85 – 103

〈研究発表・講演・学会報告〉

- ・ “The Counter-Enlightenment Petitioning of Shimazu Hisamitsu,” 26th New Zealand Asian Studies Society Conference, University of Auckland, 2025 年 12 月 2 日

〈研究助成〉

・ 「熊本敬神党の比較思想史」 日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究 若手研究 2023 年 4 月 - 2027 年 3 月

〈国際共同研究実施状況〉 「Learning from and Promoting the African Association for Japanese Studies」 (Global Japanese Studies Education and Research Incubator) プロジェクト代表者

〈主たる実施者となって開催した学会〉 “Globalizing Japanese Studies in the Age of the Rising Global South,” 12 月 11 日、大阪大学

〈主たる実施者となって開催した研究会〉 「グレゴリー・ケズナジャットの芥川賞候補作を学際的に読む」、2025 年 11 月 28 日、大阪大学

[その他の活動]

〈管理運営〉 人文学林学術推進部門、図書委員会、マルチリンガル教育センターマルチリンガルプラザ

〈市民向け講座・講演〉 BBC ペルシャ語版「ハルガール」インタビュー番組・日本について 55 分インタビュー
ユー <https://www.youtube.com/watch?v=zKTTmsdjzE8>

北井 聡子 (KITAI Satoko) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉ジェンダー論 A・B

〈共通教育担当科目〉ロシア語 I・II、国際コミュニケーション演習（ロシア語）、ロシア語上級

[研究活動]

〈研究テーマ〉ジェンダー/セクシュアリティ表象、フェミニズム批評、ロシア文学、ロシア文化・思想、メロドラマ

〈所属学会〉日本ロシア文学会

[研究業績]

〈研究発表・講演・学会報告〉

- ・ Satoko KITAI, “Transition of Sexuality and Body of Masculinized Female Protagonists in the 1920s and 1930s.” XI ICCEES World Congress, UCL, London. 2025 年 7 月 21 - 25 日。
- ・ 北井聡子 「A.トルストイの SF 小説『アエリタ』における「母なる他者」からの分離」、「プラトンとロシア」春期研究会、2026 年 3 月 4-5 日、九州大学。

〈研究助成〉

- ・ 「近現代ロシア思想における《異他性》の思考：思想史的遠近法の再構築をめざして」日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 (A)、研究代表者：貝澤哉、課題番号：22H00004、研究分担者
- ・ 「ロシアの「個」概念の再検討に向けた分野横断的研究——思想的背景と文化的実相」日本学術振興会 科学研究費助成事業、基盤研究 (C)、研究代表者：大森雅子、研究番号：23K00436、研究分担者
- ・ 「ポストソ連のメロドラマ文化」日本学術振興会 科学研究費助成事業 国際共同研究加速基金（海外連携研究）、研究代表者：安達大輔、研究番号：23KK0004、研究分担者

〈調査活動〉

- ・ 資料調査：
 - ① 19 世紀末ロシア女子教育に関する調査 2025 年 3 月 9 日 東京大学駒場図書館
 - ② 1920 年代初頭ソ連若者文化に関する調査 2026 年 3 月 10-11 日 東京大学経済学部図書館（本郷）

〈主たる実施者となって開催した学会〉

- ・ 日本ロシア文学会第 75 回定例総会・研究発表会、プレシンポジウム 2025 年 10 月 24 日（金）25 日（土）26 日（日）、大会実行委員

[その他の活動]

〈管理運営〉広報・社会貢献委員委員長、部会主任、カリキュラム委員

〈学会活動〉日本ロシア文学会事務局書記、日本ロシア文学会関西支部理事

小杉 世 (KOSUGI Sei) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉グローバリゼーション論 A・B、現代超域文化論特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉総合英語 (Project-based English)

〈学部教育担当科目〉 グローバリゼーション論 A・B

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉 英語圏文学、オセアニアの先住民/移民文学文化と先住民言語教育、ポストコロニアル文化形成論、モダニズム研究、演劇とコミュニティ、環境芸術と文学、核と気候変動の表象、医療と文学、先住民医療

〈所属学会〉 日本英文学会（日本英文学会関西支部）、日本オセアニア学会、オーストラリア・ニュージーランド文学会、オーストラリア学会、ASLE-Japan（文学・環境学会）、エコクリティシズム研究学会、日本文化人類学会、日本ヴァージニア・ウルフ協会、NZSA (New Zealand Studies Association, UK)、国際演劇協会 (ITI)

〔研究業績〕

〈編著〉（複数の編者によるもの）

・小杉世・加藤めぐみ 編著『南半球評論』41号、オーストラリア・ニュージーランド文学会、2026年3月31日（論文）

・小杉世「戦後80年の広島で——太平洋からヒロシマを見る」『南半球評論』41号、2026年3月、pp.49–58.

〈研究発表・講演・学会報告〉

・小杉世「マオリの伝統芸能 カパハカ」（Ngā Hau E Whā 研究公演の解説）、国立民族学博物館 みんなくインテリジェントホール（講堂）、2025年9月27日

〈研究助成〉

・科学研究費補助金 基盤研究 (B)2024年度～2026年度「トランス／ナショナルな視座からの核・原爆の〈表現〉の研究」（研究代表者：松永京子、課題番号：24K00057、自身の役割：研究分担者）

・科学研究費補助金 基盤研究 (B) 2022年度～2025年度「豪マイノリティ作家の21世紀の課題解決に向けたネオ・コスモポリタニズム文学研究」（研究代表者：加藤めぐみ、課題番号：23K21925(22H00653)、自身の役割：研究分担者）

・科学研究費補助金 基盤研究 (C) 2022年度～2025年度「人新世の共生をめぐる文学—太平洋島嶼部の先住民・移民文化とグローバリゼーション」（研究代表者：小杉世、課題番号：22K00427、自身の役割：研究代表者）

〈調査活動〉

・キリバス共和国クリスマス島の核実験をめぐる記憶をめぐる調査、軍事施設の環境と先住民コミュニティに及ぼす影響に関する調査（ハワイ、カザフスタン）、核と気候変動をめぐる表象（シンガポール、マーシャル諸島、台湾）

〈国際共同研究実施状況〉

・プロジェクト名：Cultural Formations Studies VIII（言語文化共同研究プロジェクト2025）、自身の役割：研究分担者（国外の大学に在職する外国人研究者を含むプロジェクト）、報告書の発行

〈分野横断的研究実施状況〉

・科学研究費補助金 基盤研究 (B)2024年度～2026年度「トランス／ナショナルな視座からの核・原爆の〈表現〉の研究」（研究代表者：松永京子、課題番号：24K00057、自身の役割：研究分担者）

〈主たる実施者となって開催した研究会〉

Cultural Formation Studies（研究会）2025年7月12日（言文A棟302+Zoom）、10月4日（Zoom）、11月8日（Zoom）、2026年3月14日（Zoom）（発表担当）

[その他の活動]

〈管理運営〉マルチリンガル教育センター長

〈学会活動〉オーストラリア・ニュージーランド文学会理事・編集委員長、NZSA (New Zealand Studies Association, UK) Council member、エコクリティシズム研究学会地区委員

〈社会貢献活動〉

小杉世「初年次の全学英語教育―課題と展望」、国立七大学外国語教育連絡協議会、2025 年 11 月 28 日、Zoom 開催（口頭報告発表）

里内 克巳 (SATOUCHI Katsumi) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉言語文化共生論 A・B、超域文化論特別研究 B

〈共通教育担当科目〉総合英語 (Liberal Arts & Sciences)、英語選択、学問への扉「翻訳書で知るアメリカの文学」

[研究活動]

〈研究テーマ〉19-20 世紀転換期アメリカ文学における人種・ジェンダー・階級、エスニック文学研究、自伝 (life narrative) 研究

〈所属学会〉日本アメリカ文学会、日本英文学会、日本マーク・トウェイン協会、京大英文学会、日本ウィリアム・フォークナー協会

[研究業績]

〈翻訳・翻訳書〉

・スィンシファ著、里内克巳・松本ユキ共訳『スプリング・フレグランス夫人』（小鳥遊書房）2025 年 4 月

〈研究発表・講演・学会報告〉

・フォーラム「アメリカ文学における〈お金〉の諸相」講師 日本アメリカ文学会関西支部大会（立命館大学いばらきキャンパス）2025 年 12 月 6 日

〈研究助成〉

・基盤研究 C「19-20 世紀転換期アフリカ系アメリカ文学とハーレム・ルネサンスとの接続」（2024 年 4 月～2027 年 3 月）研究課題番号 24K03725

[その他の活動]

〈管理運営〉人文学研究科副研究科長・言語文化学専攻長

〈学会活動〉日本アメリカ文学会代議員、日本アメリカ文学会関西支部評議員

〈社会貢献活動〉放送大学大阪学習センター面接授業「英語初級：日常からの一歩」2025 年 4 月 26・27 日

霜鳥 慶邦 (SHIMOTORI Yoshikuni) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉言語文化共生論 A・B、超領域文化論特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉総合英語 (Liberal Arts & Sciences)

〈学部教育担当科目〉言語文化共生論 a・b

[研究活動]

〈研究テーマ〉現代英語圏文学・文化における第二次世界大戦の記憶の超領域的研究、イギリス文学研究

〈所属学会〉日本英文学会、日本英文学会関西支部、言語文化学会

[研究業績]

〈研究助成〉

・霜鳥慶邦（代表）科学研究費補助金（基盤研究C）「21世紀イギリス文学における第二次世界大戦の記憶の諸相」2023-26年度.

[その他の活動]

〈学会活動〉日本英文学会関西支部理事、日本英文学会関西支部事務局長

鈴木 啓峻 (SUZUKI Keishun) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉ジェンダー論A・B

〈共通教育担当科目〉地域言語文化演習（ドイツ語）、ドイツ語中級

[研究活動]

〈研究テーマ〉近現代ドイツ文学・思想

〈所属学会〉日本独文学会、阪神ドイツ文学会、日本独文学会京都支部

[研究業績]

〈編著〉（単独の編者によるもの）

・小黒康正編『トーマス・マン『魔の山』の新ルート：刊行百年記念論集』（同学社、2025年9月）、分担執筆
範囲：33-50頁。

〈翻訳・翻訳書〉（共訳）

・スヴェンヤ・フラスペラー（稲葉瑛志・鈴木啓峻訳）『繊細さについて——センシビリティとレジリエンスの思想史』（郁文堂、2026年3月）。

〈書評・論評・紹介〉

・「小黒康正『「第三帝国」以前の「第三の国」』——ドイツと日本におけるネオ・ヨアキム主義」（『週刊読書人』（3593号）2025年6月13日）。

[その他の活動]

〈管理運営〉カリキュラム委員

〈学会活動〉阪神ドイツ文学会幹事外編集委員

〈市民向け講座・講演〉

「イロニーの文学者トーマス・マンと現代」（大阪大学人文学研究科言語文化学専攻令和7年度公開講座「LCセミナー2025：ことば・文化・学びが会える場所」、2025年9月20日）。

中村 綾乃 (NAKAMURA Ayano) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 言語文化形成論A・B

〈共通教育担当科目〉 学問への扉、ドイツ語初級、ドイツ語中級、地域言語文化演習

[研究活動]

〈研究テーマ〉 ドイツ近現代史、ドイツ・東アジア関係史、ドイツ植民地

〈所属学会〉 阪神独文学会、欧亜関係史研究会

[研究業績]

〈論文〉

- ・中村綾乃「駐日大使ゾルフ②—文人大使の交流」『言語文化の比較と交流 (12)』 pp. 23-33.

〈研究助成〉

- ・「神戸大学アーバンイノベーション研究プロジェクト神戸市域におけるキリスト教関係史料の整理と観光活用」

(研究分担者)

- ・科学研究費補助金(基盤C)「第二次大戦期の日独関係とユダヤ人問題——「上海ゲットー」の設立を中心に」

(2023 - 2027 年度) (研究分担者)

平山 晃司 (HIRAYAMA Koji) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 超領域文化論A・B、超領域文化論特別研究A・B

〈共通教育担当科目〉 ギリシャ語初級・中級、ラテン語初級・中級

[研究活動]

〈研究テーマ〉 西洋古典学、古代ギリシアの法と宗教

〈所属学会〉 日本西洋古典学会

[その他の活動]

〈管理運営〉 紀要編集委員会副委員長、大学院教務委員、言語文化学会委員

【表象文化論講座】

木原 善彦 (KIHARA Yoshihiko) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 研究実践基礎、研究発表演習、表象文化論B、表象文化論特別研究B

〈共通教育担当科目〉 総合英語 (Liberal Arts & Sciences)、実践英語(e-learning 入門)、実践英語(e-learning 応用)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 現代英語圏小説、翻訳、文体論

〈所属学会〉 日本英文学会、日本アメリカ文学会、京大英文学会

[研究業績]

〈翻訳・翻訳書〉

- ・（単訳）レイラ・ララミ『ムーア人による報告』（白水社、2025年5月）
- ・（単訳）パーシヴァル・エヴェレット『ジェイムズ』（河出書房新社、2025年6月）
- ・（単訳）チャーリー・カウフマン『アントカインド』（河出書房新社、2025年8月）
- ・（単訳）リチャード・パワーズ『プレイグラウンド』（新潮社、2025年10月）
- ・（単訳）ベン・ラーナー『10:04』（白水社、2025年12月）既刊の単行本からUブックス化

〈書評・論評・紹介〉

- ・『文藝年鑑2025』アメリカ文学部門の概観

〈研究発表・講演・学会報告〉

- ・（ワークショップ）「パーシヴァル・エヴェレットの『ジェイムズ』を読む」でコメンテーター（日本マーク・トウェイン協会全国大会にて、2025年10月25日）
- ・（シンポジウム）「グレゴリー・ケズナジャットの芥川賞候補作を学際的に読む」で講師（大阪大学人文学林シンポジウム2025年11月28日）

〈受賞〉

- ・第11回日本翻訳大賞受賞（エヴァン・ダーラ『失われたスクラップブック』の翻訳に対して）

[その他の活動]

〈学会活動〉日本アメリカ文学会関西支部運営委員、日本英文学会関西支部理事

〈市民向け講座・講演〉

- ・（トークイベント）エヴァン・ダーラ『失われたスクラップブック』&ジャミル・ジャン・コチャイ『きみはメタルギアソリッドV：ファントムペインをプレイする』刊行記念トークイベント（京都・出町座にて） 木原善彦、矢倉喬士（2025年4月19日）

佐高 春音 (SATAKA Harune) 講師

[教育活動]

〈研究科担当科目〉翻訳研究A・B

〈共通教育担当科目〉中国語初級Ⅰ・Ⅱ、中国語中級

[研究活動]

〈研究テーマ〉中国明清時代の通俗小説

〈所属学会〉中国古典小説研究会、日本中国学会、東方学会、慶應義塾中国文学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・「容与堂本『水滸伝』「李卓吾評」に関する初歩的研究：人物批評に注目して」（『言語文化共同研究プロジェクト2024「言語文化の比較と交流(12)」』、2025年5月、1-10頁）
- ・「金聖歎本『水滸傳』が創出する新たな読書の楽しみ：評中に見える三種の模倣に着目して」（『東方學』第150輯、2025年7月、83-101頁）

・（会議論文）「金聖嘆本《水浒传》的“实况式”评点特征初探」（『復旦大學第五屆中國文論國際學術研討會
論文集（下冊）』、2025 年 10 月、542-550 頁）

〈翻訳・翻訳書〉

・（映画字幕翻訳）チョン・モンホン監督『余燼』（原題『餘燼』、台湾文化センター「台湾映画上映会 2025」
で上映、2025 年 5 月、共訳者：吉川龍生）

・（映画字幕翻訳）ワン・ハオタイ監督『レディ！ サーブ！ スマッシュ！』（原題『青春的回撃殺球』、東京
国際映画祭 2025「アジア学生映画コンファレンス」部門で上映、2025 年 10 月、共訳者：吉川龍生）

・（映画字幕翻訳）チュー・ジージョン監督『国旗掲揚式前の 12 の瞬間』（原題『升旗手』、東京国際映画祭 2025
「アジア学生映画コンファレンス」部門で上映、2025 年 11 月、共訳者：吉川龍生）

〈研究発表・講演・学会報告〉

・「書物における“ごっこ遊び”：金聖歎本『水滸伝』の事例から」（U-PARL 東西融合ワークショップ「「俗
語」の書記言語化が開く新たな言語と文学」、2025 年 5 月 31 日）

・「金聖嘆本《水浒传》的“实况式”评点特征初探」（復旦大學第五屆中國文論國際學術研討會、2025 年 10 月
25 日）

〈研究助成〉

・科学研究費助成事業 若手研究「明清通俗小説刊本における諸記号の研究：『水滸伝』を中心に」（研究課題番
号：24K15997、研究代表者）

〔その他の活動〕

〈管理運営〉マルチリンガル教育センター言語学習支援オフィス委員、人権問題委員会委員、キャンパス・ハラ
スメント問題小委員会委員

〈学会活動〉日本中国学会、研究推進・国際交流委員会幹事

〈市民向け講座・講演〉

・「中国古典小説『水滸伝』を知る：第 1 回『水滸伝』の成立をめぐって」（大阪府河内長野市くろまろ塾本部
講座、2025 年 8 月 23 日）

・「中国古典小説『水滸伝』を知る：第 2 回『水滸伝』の展開をめぐって」（大阪府河内長野市くろまろ塾本部
講座、2025 年 8 月 24 日）

・「李逵（『水滸伝』）」（中国古典小説研究会 2025 年度大会特別企画②『中国古典小説のここが面白い！』第
2 回「研究者、推しキャラクターを語る」、2025 年 9 月 14 日）

田中 智行 (TANAKA Tomoyuki) 准教授

〔教育活動〕

〈研究科担当科目〉言語文化比較交流論 A・B、表象文化論特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉中国語初級、中国語中級、国際コミュニケーション演習（中国語）

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉中国古典白話小説研究

〈所属学会〉日本中国学会、東方学会、中国人文学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・ “Burning Incense at Night: Structuring a Novel with Material from Oral Performing Arts in the Jin Ping Mei” , ACTA ASIATICA 129, 2025

〈翻訳・翻訳書〉

- ・ 『新訳 金瓶梅 下巻』 鳥影社、2025 年 4 月

〈書評・論評・紹介〉

- ・ 「遊んでる？——『金瓶梅』 訳者の言い分」 Web 東方、2025 年 7 月
- ・ 「演奏と翻訳——『金瓶梅』 を訳して」 『トンシュエ』 70、2025 年 10 月
- ・ 「受賞の弁」 『日本翻訳家協会（会報）』 2025 年 12 月
- ・ 「あばら家に光が——『金瓶梅』 訳了の記」 『季刊文科』 100、2025 年 6 月

〈研究発表・講演・学会報告〉

- ・ 「応伯爵（『金瓶梅』）」 シンポジウム「中国古典小説のここが面白い！」 第 2 回「研究者、推しキャラクターを語る」、中国古典小説研究会令和 7 年度例会 2025 年 9 月 14 日
- ・ 「『金瓶梅』中客観描写與内心独白的融合——以金聖歎的《水滸伝》評点為切入点」 復旦大学第五届中国文論国際学術研討会、2025 年 10 月 25 日

〈対談・インタビュー〉

- ・ 田中智行、渡部直己「（対談）現代に甦る中国古典『金瓶梅』——『新訳 金瓶梅』（全三冊・鳥影社）完結を機に」 『週刊読書人』 3593、2025 年 6 月
- ・ 田中智行、阿久澤武史（インタビュアー）「話題の人『新訳 金瓶梅』で日本翻訳文化賞を受賞」 『三田評論』 1306、2026 年 1 月

〈研究助成〉

- ・ 科学研究費補助金（基盤研究 C）「全訳と詳注の作成による『金瓶梅』終盤の研究」

〈受賞〉

- ・ 第 62 回日本翻訳文化賞、2025 年 10 月

[その他の活動]

〈管理運営〉 表象文化論講座代表、中国語部会主任

津田 保夫 (TSUDA Yasuo) 教授

<http://www.lang.osaka-u.ac.jp/~tsuda/>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 言語文化比較交流論 A・B、表象文化論特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉 ドイツ語初級、ドイツ語中級、地域言語文化演習（ドイツ語）、学問への扉

[研究活動]

〈研究テーマ〉 18 世紀ドイツ文学・思想史、村上春樹研究

〈所属学会〉 日本独文学会、阪神ドイツ文学会

[研究業績]

〈論文〉「村上春樹『街とその不確かな壁』における二つの世界：不確かな壁のあちら側とこちら側」（言語文化共同研究プロジェクト 2024「文化」の解説 (25): 文化と情報)

[その他の活動]

〈管理運営〉マルチリンガル教育センター・カリキュラム開発オフィス長

林 千宏 (HAYASHI Chihiro) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉表象文化論 A・B、表象文化論特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉フランス語初級 I、II、フランス語中級

[研究活動]

〈研究テーマ〉16 世紀フランス文学、書物の歴史

〈所属学会〉日本フランス語フランス文学会、日本フランス語フランス文学会関西支部、日本ロンサール学会、大阪大学フランス語フランス文学研究会

[研究業績]

〈共著〉『実用フランス語技能検定試験 2025 年度版 2 級・準 2 級仏検公式ガイドブック』フランス語教育振興協会編・発行、2025 年 4 月

〈論文〉【Compte rendu d'un atelier du congrès automnal 2024 de la Société Japonaise de Langue et de Littérature Françaises】
Une lecture renouvelée pour une nouvelle traduction japonaise intégrale des *Amours* (1552) de Pierre de Ronsard, « Sur les sonnets 10-13 des *Amours* de 1552 (p. 10-11) », 『ロンサール研究』XXXVIII, p. 31-33, p. 71-82, 11 月

〈研究発表〉« Aspect musical de la traduction japonaise des *Amours* (1552) de Ronsard », dans Table ronde « La Transmission de la poésie française du XVI^e siècle au Japon », Colloque international (10-14 juin 2025) Nouvelles voies des études sur la Renaissance, Fédération internationale des sociétés et instituts pour l'étude de la Renaissance, (フランス、パリ、ソルボンヌ大学、6 月 13 日)

〈講演〉・演奏とセミナー「空、大気と風～ロンサールの詩と音楽～」於 クレオ大阪中央、5 月 3 日

・演奏とセミナー「天地は飾るあの人を～ロンサールの詩と音楽～ vol. 2」於 大阪大学会館講堂、1 月 10 日

・「フランス・ルネサンスの文学と音楽」、認定 NPO 法人 大阪府北部コミュニティカレッジ、2025 年 5 月 26 日。

・「フランス・ルネサンスの文学と絵画」、認定 NPO 法人 大阪府北部コミュニティカレッジ、2026 年 2 月 2 日。

〈研究助成〉

・科研費基盤 (B) 「初期近代西欧の視覚芸術における多様性と発想：美術と修辞学の創造的共同」（研究代表者 桑木野幸司）研究分担者

・科研費基盤 (C) 「16 世紀フランスにおけるエピグラム・エンブレム・ソネ：印刷本としての抒情詩集研究」
研究代表者課題番号 (23K004210)

[その他の活動]

〈管理運営〉言語文化学専攻大学院教務委員長、附属図書館総合図書館運営委員

〈学会活動〉日本ロンサール学会幹事、同学会編集委員、大阪大学フランス語フランス文学研究会編集委員、大阪大学言語文化学会紀要編集委員

〈社会貢献活動〉文部科学省後援実用フランス語技能検定試験専門委員、放送大学講師、認定 NPO 法人大阪府北部コミュニティカレッジ (ONCC) 講師

福田 覚 (FUKUTA Satoshi) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉表象文化論 A・B、表象文化論特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉ドイツ語初級 I・II、地域言語文化演習（ドイツ語）、ドイツ語中級

[研究活動]

〈研究テーマ〉18 世紀詩学史、ドイツ啓蒙主義、自己表象物語

〈所属学会〉日本独文学会、同京都支部会、日本 18 世紀学会

[研究業績]

〈論文〉

・「模倣と快い作用をめぐる啓蒙主義詩学の一断面——複合的に組み立てられる快について」『ドイツ啓蒙主義研究』第 22 号（ドイツ啓蒙主義研究会、2025 年 7 月 31 日） S.23-44

・「迫害への不安とそれを観取する眼の覚束なさ——自己表象物語の書き換えについて（四）」『希土』（希土同人社、2025 年 9 月 1 日）第 50 号 S.2-62

〈研究助成〉

・「ドイツ啓蒙主義詩学史の再記述—模倣・想像・情念の複合性をめぐる概念史として」（研究代表者）2021 年度～25 年度、科学研究費補助金 基盤研究(C)

[その他の活動]

〈管理運営〉専攻設備・施設マネジメント委員会委員、専攻広報・社会貢献検討委員会委員

村上スミス アンドリュー (MURAKAMI-SMITH, Andrew) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉翻訳研究 A・B

〈共通教育担当科目〉総合英語 (Performance Workshop)、総合英語 (Project-Based)

〈国際交流科目担当科目〉近代・現代日本文学、近代日本文学における大阪

[研究活動]

〈研究テーマ〉近代・現代日本文学、日本の地域言語文化、翻訳の理論と実践

[研究業績]

〈論文〉

・ “Is the ‘Literature of Possibility’ Possible? A translation of Oda Sakunosuke’s Kanōsei no bungaku with commentary.” 言

語文化共同研究プロジェクト 2024 「“The Rhetoric IS the Message” 「レトリックはメッセージである」 —修辞・意味・認知の関わり—」 大阪大学大学院人文学研究科言語文化学専攻, 2025 年 5 月.

〈書評・論評・紹介〉

・「境界線の向こう側 澤村伊智作品に現れる、ひとの『心の闇』」『ユリイカ』 57 巻 12 号 (2025 年 10 月 1 日).

[その他の活動]

〈管理運営〉全学国際交流委員会傘下 OUSSEP 運営 WG 委員

〈社会貢献活動〉石橋キッズランド代表、池田市バリアフリー推進協議会委員

山本 佳樹 (YAMAMOTO Yoshiki) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉表象文化論 A・B、表象文化論特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉ドイツ語初級 I・II、ドイツ語中級、地域言語文化演習（ドイツ語）

〈学部教育担当科目〉表象文化論 a・b

[研究活動]

〈研究テーマ〉映画学、ドイツ文化

〈所属学会〉日本映画学会、日本映像学会、表象文化論学会、日本独文学会、阪神ドイツ文学会、大阪大学ドイツ文学会、大阪大学言語文化学会

[研究活動]

〈研究テーマ〉映画学、ドイツ文化

〈所属学会〉日本映画学会、日本映像学会、表象文化論学会、日本独文学会、阪神ドイツ文学会、大阪大学ドイツ文学会、大阪大学言語文化学会

[研究業績]

・山本佳樹「呪われた映画？—アメリカ、スイス、日本におけるナチ映画の同時代の受容」、『「文化」の解読 (25) —文化と情報』言語文化共同研究プロジェクト 2024 (大阪大学大学院人文学研究科)、pp.11-20、2025 年 5 月

〈書評・論評・紹介〉

・山本佳樹「巻頭言：懷徳堂、適塾、そして明教館—学舎に想いを馳せて」、『懷徳』 94、pp.2-4、2026 年 1 月

〈研究発表・講演・学会報告〉

・山本佳樹「見ることと聴くこと、そして触れること—『ベルリン・天使の詩』と映画の夢」、退職記念講義 (大阪大学)、2026 年 3 月 5 日

〈主たる実施者となって開催した研究会〉

・デュレンマット研究会、2025 年 4 月 12 日 (大阪大学)、2025 年 5 月 10 日 (大阪大学)、2025 年 6 月 15 日 (大阪大学)、2025 年 8 月 24 日 (大阪大学)、2025 年 12 月 7 日 (大阪大学)、2026 年 1 月 11 日 (大阪大学)、2026 年 2 月 11 日 (大阪大学)

[その他の活動]

〈管理運営〉人文学研究科長

〈学会活動〉日本映画学会顧問

〈社会貢献活動〉一般財団法人懷徳堂記念会常務理事

渡辺 貴規子 (WATANABE Kimiko) 准教授

〔教育活動〕

〈研究科担当科目〉翻訳研究 A・B

〈共通教育担当科目〉フランス語初級I、フランス語中級、地域言語文化演習（フランス語）

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉フランス児童文学、翻訳

〈所属学会〉日本児童文学学会、日本フランス語フランス文学会、日本比較文学会、International Research Society for Children's Literature、Association des Amis d' Hector Malot

〔研究業績〕

〈書評〉

・「川島隆著 『ハイジの生みの親 ヨハンナ・シュペーリ』 （青弓社、2024年）」『比較文学』68号、2026年3月、105-109頁。

〈研究発表・講演・学会報告〉

・「Translation of Sans Famille in Early 20th Century Japan : On the Source of the Popularity of the Work」、国際比較文学会 (ICLA) 第24回ソウル国際大会、KINTEX、2025年8月1日。

・「フランス児童文学の歴史①—17・18世紀の寓話・童話」、認定NPO法人 大阪府北部コミュニティカレッジ、2025年8月25日。

・「フランス児童文学の歴史②—近現代の小説をめぐって」、認定NPO法人 大阪府北部コミュニティカレッジ、2025年12月15日。

〈研究助成〉

・科学研究費助成事業（科研費）基盤研究(C) 研究代表者:「1920年代の日本の少女雑誌におけるフランス文学・フランス文化の受容」研究課題番号 25K04013（2025年4月～2029年3月）

〔その他の活動〕

〈管理運営〉大阪大学言語文化学会副委員長

〈学会活動〉日本児童文学学会事務局長・理事、日本フランス語フランス文学会関西支部実行委員、大阪大学フランス語フランス文学会委員

〈社会貢献活動〉日本の学生が選ぶゴンクール賞 2025-2026（「第5回 ゴンクール賞日本」）運営委員

【コミュニケーション論講座】

井坂 ゆかり (ISAKA Yukari) 講師

〔教育活動〕

〈研究科担当科目〉語用論研究 A・B

〈共通教育担当科目〉ドイツ語中級、ドイツ語初級、地域言語文化演習（ドイツ語）

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉現代ドイツ語の人称代名詞の用法

〈所属学会〉日本独文学会、東京外国語大学大学院ドイツ語学文学研究会、ドイツ文法理論研究会、日本言語学会、Societas Linguistica Europaea（欧州言語学会）

〔研究業績〕

〈研究発表・講演・学会報告〉

・井坂ゆかり「主語としての相関詞 es の出現傾向：主語文が後続する形容詞述語の実例調査から」日本独文学会秋季研究発表会シンポジウム III「es が指し示す地平：いつ、なぜ es が現れるのか」, 2025 年 10 月 18 日

・Yukari Isaka「Wozu wird es verwendet? Eine Korpusuntersuchung zum Gebrauch des Personalpronomens im modernen Deutsch（es の用いられる目的は何か？現代ドイツ語の人称代名詞の使用についてのコーパス調査）」, 2025 年 8 月 21 日

〈研究助成〉

・井坂 ゆかり「現代ドイツ語の人称代名詞と情報構造」日本学術振興会科学研究費助成事業若手研究、JP25K16261

〔その他の活動〕

〈学会活動〉日本独文学会語学ゼミナール実行委員

〈市民向け講座・講演〉東京外国語大学オープンアカデミー（ドイツ語）

植田 晃次 (UEDA Kozi) 教授

〔教育活動〕

〈研究科担当科目〉社会言語学研究 A（副題：社会言語学の諸相）、コミュニケーション論特別研究 A

〈共通教育担当科目〉朝鮮語初級 I、朝鮮語中級、国際コミュニケーション演習（朝鮮語）、地域言語文化演習（朝鮮語）

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉日本における朝鮮語教育史、在外朝鮮民族の言語をめぐる諸問題、朝鮮語に対する言語政策

〈所属学会〉朝鮮学会、多言語社会研究会、朝鮮史研究会

〔研究業績〕

〈論文〉

・「宝迫繁勝が執筆・関与した出版物 ― 付「阪大宝迫文書」― 『大阪大学大学院人文学研究科紀要』3、大阪大学大学院人文学研究科、2026 年 3 月、185-199 頁（査読なし）

・「（研究ノート：講演記録）日本語での the Korean language の「呼称問題」の問題を考える ― 知と情の相

克を超えて 一』『批判的社会言語学の地平（言語文化共同研究プロジェクト2025）』大阪大学大学院人文学研究科言語文化学専攻、2025年5月、41-54頁（査読なし）

〈研究助成〉

・2023～2025年度：科学研究費補助金基盤研究（C）「『旧朝鮮語学』と20世紀後半の朝鮮語教育から見た日本近現代朝鮮語教育史の研究」（研究課題番号：23K00745、研究代表者）

〔その他の活動〕

・マルチリンガル教育センター：朝鮮語教育推進部会主任、運営委員会・カリキュラム委員会・カリキュラム小委員会・言語教育推進部会主任会議・広報委員会・社会貢献委員会・特任教員（外国語教育等）人事委員会の各委員、カリキュラム開発オフィス員など

・言語文化学専攻：（部内）〈部会選出〉朝鮮語部会主任、部会主任会議・財務会計委員会・紀要編集委員会・の各委員

〈学会活動〉朝鮮学会常任幹事・編輯委員（2020年4月～）、会計監査（2024年4月～）

榎本 剛士 (ENOMOTO Takeshi) 教授

〔教育活動〕

〈研究科担当科目〉コミュニケーション論 A・B、コミュニケーション論特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉総合英語 (Content-based English)、総合英語 (Performance Workshop)

〈学部教育担当科目〉コミュニケーション論 a・b（外国語学部外国語学科 学共-方法論）

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉記号論、言語人類学、語用論、実践論・出来事論としてのコミュニケーション研究、言語イデオロギーを含むメタ・コミュニケーション研究、言語人類学の枠組みを援用した近現代日本の英語教育研究

〈所属学会〉社会言語科学会、日本英語教育史学会、International Association for Semiotic Studies、International Pragmatics Association

〔研究業績〕

〈編著〉（複数の編者によるもの）

・ Kataoka, Kuniyoshi, Makiko Takekuro, and Takeshi Enomoto, eds. *Poetics of Living: Aspects of Multimodal and Multisensorial Semiosis*. Bloomsbury, February 2026.

〈論文〉

・ “Poetic Emergence and Chronotopic Regimentation of Qualia.” In *Poetics of Living: Aspects of Multimodal and Multisensorial Semiosis*, edited by Kuniyoshi Kataoka, Makiko Takekuro, and Takeshi Enomoto, 163-186, February 2026.

・ Takekuro, Makiko, Takeshi Enomoto, and Kuniyoshi Kataoka. “Quo Vadimus?: Toward Plurimodal Poetics.” In *Poetics of Living: Aspects of Multimodal and Multisensorial Semiosis*, edited by Kuniyoshi Kataoka, Makiko Takekuro, and Takeshi Enomoto, 265-280, February 2026.

・ Kataoka, Kuniyoshi, Makiko Takekuro, and Takeshi Enomoto. “Introduction: What, Why, and How of (Meta-)Discursive Poetics.” In *Poetics of Living: Aspects of Multimodal and Multisensorial Semiosis*, edited by Kuniyoshi Kataoka, Makiko Takekuro, and Takeshi Enomoto, 1-26, February 2026.

・『『マルチモーダルな記号過程』から『行為の感じ』へ向かうための理論的覚書』『言語文化共同研究プロジェクト 2024 ことばと社会④』、1-9 頁、2025 年 5 月

〈研究発表・講演・学会報告〉

・「英語授業内グループワークを巡る『メタ語用的フレーム』と『連鎖』の問題について」シンポジウム「英語学習ペア／グループワークの相互行為分析」2026 年 3 月 13 日

・「複数の声がいかに聞こえなくなるか：言語人類学の視点から」大阪大学大学院人文学研究科人文学林シンポジウム「複数言語文化環境に生きる人びとの世界」2026 年 1 月 12 日

〈研究助成〉

・日本学術振興会 科学研究費助成事業 国際共同研究強化 (B)「言説の変革を実現する言語教育観の国際比較研究」(2022 年 10 月～2027 年 3 月) 研究分担者 (研究代表者：嶋津百代)

・日本学術振興会 科学研究費助成事業 学術変革領域研究 (B)「音声会話に伴う身振りを対象としたマルチモーダル記号論の構築」(2022 年 5 月～2025 年 3 月 ※1 年延長) 研究分担者 (研究代表者：高梨克也)

〈国際共同研究実施状況〉

【プロジェクト名】科学研究費助成事業 国際共同研究強化 (B)「言説の変革を実現する言語教育観の国際比較研究」【自身の役割】研究分担者

〈分野横断的研究実施状況〉

【プロジェクト名】科学研究費助成事業 学術変革領域研究 (B)「音声会話に伴う身振りを対象としたマルチモーダル記号論の構築」【自身の役割】研究分担者【ウェブサイト】<https://research.nii.ac.jp/EmSemi/index.html>

[その他の活動]

〈管理運営〉言語文化学専攻学生支援委員会委員長、人文学研究科教学委員会委員、マルチリンガル教育センターカリキュラム開発オフィス員

〈学会活動〉社会言語科学会理事、同研究大会委員会副委員長

〈社会貢献活動〉放送大学大阪学習センター客員教授

〈市民向け講座・講演〉

・『『コミュニケーション』というミイラを取りに行くとミイラになる？』放送大学大阪学習センター 2025 年度公開講座、2025 年 8 月 24 日

王 周明(WANG Zhouming) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉語用論研究 A・B、コミュニケーション論特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉中国語初級 I・II、国際コミュニケーション演習 (中国語)

[研究活動]

〈研究テーマ〉中国語歴史文法、方言文法、語用論

〈所属学会〉日本中国語学会、日本中国近世語学会、中日理論言語学研究会

[研究業績]

〈調査活動〉中国史的文献における言語策略に関する諸問題

[その他の活動]

〈管理運営〉人文学研究科言語文化学専攻研究企画推進委員会委員長、マルチリンガル教育センター
中国語カリキュラム委員

〈学会活動〉学術誌の査読業務

大前 智美 (OMAE Tomomi) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉第二言語教育実践研究 A・B

〈共通教育担当科目〉地域言語文化演習（ドイツ語）

[研究活動]

〈研究テーマ〉外国語教育、ICT 支援外国語教育・学習、複言語学習

〈所属学会〉日本独文学会ドイツ語教育部会、e-Learning 教育学会、外国語メディア教育学会、コンピュータ利用教育学会、日本外国語教育推進機構

[研究業績]

〈論文〉

・大前智美, 岩居弘樹, 「オンライン複言語学習の実践と教材化の可能性-Padlet を活用して-」, 『2025 PC カンファレンス論文集』, pp.294-297, 2025 年 8 月

・大前智美, 岩居弘樹, 「AI×Book Creator の活用 -大学初級外国語授業におけるアウトプットの実践-」, 『日本教育工学会 2025 年秋季全国大会 講演論文集』, pp.45-46, 2025 年 9 月

・山岡 正和, 首藤 美也子, 大前 智美, 岩居 弘樹, 「「情報活用能力の育成×複言語学習」の試みー「ワクワク」が「循環」する STEAM 教育の導入ー」, 『デジタル教科書研究 12 巻』, pp.1-16, 2025 年 10 月

・山岡正和, 大前智美, 「Reality Composer × 複言語学習の実践」, 『コンピュータ&エデュケーション 59』, pp.88-91, 2025 年 12 月

〈研究発表・講演・学会報告〉

・大前智美, 岩居弘樹, 「オンライン複言語学習の実践と教材化の可能性-Padlet を活用して-」, 2025 PC カンファレンス, 2025 年 8 月 22 日

・大前智美, 岩居弘樹, 「AI×Book Creator の活用 -大学初級外国語授業におけるアウトプットの実践-」, 日本教育工学会 2025 年秋季全国大会, 2025 年 9 月 27 日

・大前智美, 「「創る学び、伝える力 : 外国語教育×デジタル表現」, 2025★沖大シンポジウム「先端技術と語学教育の未来」, 2025 年 11 月 1 日

・大前智美, 岩居弘樹, 「iPad Café」, 外国語教育メディア学会第 64 回年次研究会, 2025 年 11 月 22 日

・大前智美, 岩居弘樹, 「小学校における複言語・複文化学習のための交流授業の実践」, JACTFL 第 14 回シンポジウム, 2026 年 3 月 8 日

・大前智美, 岩居弘樹, 「ICT・AI を活用した外国語学習 入門から最新事例まで「40 分で体験! AI で作る外国

語学習アプリ作成（Gemini Canvas 入門）」」，2025 年度 e-Learning 教育学会 研究大会，2026 年 3 月 14 日
〈研究助成〉

・基盤研究 C，「人と人をつなぐ学びのコミュニティと ICT 支援言語学習モデルの構築」（課題番号 25K04260），
2025 年～2027 年

・基盤研究 C，「メタバースにおける AI を活用した外国語教育の実証的研究」（課題番号 25K04261），
研究分担者，2025 年～2027 年

〈主たる実施者となって開催した学会〉

・2025 年度 e-Learning 教育学会研究大会，2026 年 3 月 14 日，九州大学

〈主たる実施者となって開催した研究会〉

・2025★沖大シンポジウム「先端技術と語学教育の未来」，2025 年 11 月 1 日，沖縄大学

[その他の活動]

〈管理運営〉D3 センター PLS

〈学会活動〉e-Learning 教育学会 会長，外国語教育メディア学会関西支部運営委員

〈社会貢献活動〉世界の言葉プロジェクト（複言語・複文化学習）：岡山市立芥子山小学校，備前市立吉永小学校，寝屋川市教育委員会

〈市民向け講座・講演〉市民講座 2025 複言語学習のススメ

覚知 頌春 (KAKUCHI Nobuharu) 講師

[教育活動]

〈共通教育担当科目〉ドイツ語中級、地域言語文化演習（ドイツ語）、ドイツ語言語文化演習（中級継続）

[研究活動]

〈研究テーマ〉中低ドイツ語における *to*-不定詞と準抱合

〈所属学会〉日本独文学会、ドイツ文法理論研究会、日本歴史言語学会、北海道ドイツ文学会、京都ドイツ語学研究会、Verein Nordfriesisches Institut、Verein für niederdeutsche Sprachforschung

[研究業績]

〈研究発表・講演・学会報告〉

・Überlegungen zur Entwicklung der Quasi-Inkorporation beim niederdeutschen *to*-Infinitiv. 8. Kongress der Internationalen Gesellschaft für Dialektologie des Deutschen (IGDD) 2025 年 9 月 19 日

・低地ドイツ語の正書法 SASS –その成立と特徴について–. 京都ドイツ語学研究会第 117 回例会（シンポジウム『地域言語と表記法』） 2025 年 12 月 20 日

〈研究助成〉

・日本学術振興会 科学研究費助成事業 研究活動スタート支援「中低ドイツ語における *to*-不定詞の実証的研究 準抱合と *to* の文法化をめぐる」 （課題番号 25K23007）

[その他の活動]

〈管理運営〉言語文化学専攻紀要編集委員、言語文化学会委員、ドイツ語部会安全衛生委員

〈学会活動〉日本独文学会語学ゼミナール実行委員、日本独文学会ハラスメント対策ワーキンググループメンバー

櫻間 瑞希 (SAKURAMA-NAKAMURA Mizuki) 講師

〔教育活動〕

〈共通教育担当科目〉ロシア語初級Ⅰ・Ⅱ、ロシア語中級

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉言語社会学、文化人類学。中央アジア諸国における言語政策、ディアスポラ社会におけるエスニシティと集合的記憶、アイデンティティ、戦争と移動

〈所属学会〉日本中央アジア学会、日本言語政策学会、日本文化人類学会、ロシア・東欧学会

〔研究業績〕

〈編著〉

- 小田桐奈美・徳永昌弘・タスタンベコワ クアニシ・櫻間瑞希〔共編著〕『多言語が織りなす中央アジア：越境することば・交錯するアイデンティティ』関西大学出版部、2026年3月。

〈論文〉

- Sakurama-Nakamura, Mizuki. 2025. Tatar Enough: Cultural Identity Compensation Strategies Amongst Tatars in Tashkent, Uzbekistan. *Eurasian Research Journal* 7(3): 298-321.
- 櫻間瑞希 (2026) 「統合と多様性のジレンマ：タジキスタンにおける言語政策と言語的マイノリティの現在」小田桐奈美ほか編著『多言語が織りなす中央アジア：越境することば・交錯するアイデンティティ』（関西大学出版部）pp. 35-63.
- 櫻間瑞希 (2026) 「『タタール人らしさ』の再定義：ウズベキスタンのタタール人の言語選択にみるアイデンティティの交渉」小田桐奈美ほか編著『多言語が織りなす中央アジア：越境することば・交錯するアイデンティティ』（関西大学出版部）pp. 131-157.

〈研究発表・講演・学会報告〉

- 櫻間瑞希「名ざされるわたしのことば：言語境界と自己認識の形成に関する批判的オートエスノグラフィに向けて」第91回多言語化現象研究会、2025年6月21日（大阪大学）。
- Sakurama-Nakamura, Mizuki. Crisis as Catalyst: Memory, Migration, and Identity Among Tatars in Post-2022 Kazakhstan. *Slavic-Eurasian Research Center 2025 Summer International Symposium "Eurasia's Tectonic Changes: Past and Present"*. 4 July 2025, Hokkaido University.
- 櫻間瑞希「戦時下で「言語を選択する」ことの意味を考える：移動したタタール人の例から」第75回日本ロシア文学会全国大会プレシンポジウム「ロシア語という言語を考える：その言語的特徴と歴史、社会との関わりをめぐって」、2025年10月24日（東京大学）。
- 櫻間瑞希「ウクライナ侵攻後にロシアから移動したタタール人は何をもたらしたか：アルマトウのタタール人社会に見る危機、移動、記憶」ロシア・東欧学会2025年度研究大会、2025年11月9日（同志社大学）。
- 櫻間瑞希「ポピュラーなるものを問う：非対称性から創造的誤読へ（国立民族学博物館共同研究・一般「非欧米圏ポピュラー音楽の実践に見る新たな文化動態」中間報告）」国立民族学博物館共同研究中間報告会、

2026年3月2日（国立民族学博物館）。

- 櫻間瑞希「現代中央アジアにおける民族の諸相：タタール人社会における言語、文化、記憶を中心に」研究会「現代ユーラシアにおける政治変動と先住民族・少数民族の文化」中央大学政策文化総合研究所「ユーラシア諸国における政治変動と文化動態に関する比較研究」主催、2026年3月3日（公益財団法人東洋文庫）。
- 櫻間瑞希「『複雑さ』を飼い慣らさない研究に向けて：タタール・ディアスポラにおける『タタール人らしさ』の記述をめぐる一考察」2025年度国際日本研究学術フォーラム、2026年3月8日（筑波大学東京キャンパス）。

〈研究助成〉

- 日本学術振興会科学研究費助成事業・若手研究「ウクライナ軍事侵攻後のタタール人移住者の多段階移動と帰属意識の変容」研究代表者、2025年4月～2029年3月。
- 日本学術振興会科学研究費助成事業・基盤研究（A）「ウクライナ軍事侵攻後のロシア国民大量出国と東ユーラシアにおける多文化共生」研究分担者（研究代表者：高倉浩樹）、2024年4月～2029年3月。
- 人間文化研究機構 国立民族学博物館共同研究（一般）「非欧米圏ポピュラー音楽の実践に見る新たな文化動態」研究代表者、2024年10月～2027年3月。

〈調査活動〉

- 2025年8月31日～9月8日 カザフスタン共和国（アルマトゥ）における調査
- 2025年9月21日～9月29日 ドイツ連邦共和国（ミュンヘン、シュトゥットガルト、マンハイム）における調査

〈分野横断的研究実施状況〉

- 人間文化研究機構ネットワーク型基幹研究プロジェクト グローバル地域研究推進事業・東ユーラシア研究「宗教とサブカルチャー」（国立民族学博物館拠点）研究分担者、2022年4月～2028年3月。
- 日本言語政策学会 日本言語政策学会特定課題研究会「各国・地域における言語政策の新展開」研究分担者（研究代表者：小田格）、2025年4月～2028年3月。
- 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同利用 共同研究課題「分断・移動の時代の継承語とアイデンティティ」研究分担者（研究代表者：安達真弓）、2024年4月～2027年3月。

〈主たる実施者となって開催した学会〉

- 日本言語政策学会 第27回研究大会、2025年6月7日・8日、神奈川大学みなとみらいキャンパス（大会実行委員）

〈主たる実施者となって開催した研究会〉

- 国立民族学博物館共同研究（一般）「非欧米圏ポピュラー音楽の実践に見る新たな文化動態」第3回研究会、2025年5月24日・25日、国立民族学博物館（ハイブリッド）
- 国立民族学博物館共同研究（一般）「非欧米圏ポピュラー音楽の実践に見る新たな文化動態」第4回研究会、2025年10月25日・26日、国立民族学博物館（ハイブリッド）
- 国立民族学博物館共同研究（一般）「非欧米圏ポピュラー音楽の実践に見る新たな文化動態」第5回研究会、2025年11月21日・22日、国立民族学博物館（ハイブリッド）
- 国立民族学博物館共同研究（一般）「非欧米圏ポピュラー音楽の実践に見る新たな文化動態」第6回研究会

会、2026年1月31日・2月1日、国立民族学博物館（ハイブリッド）

- 第91回多言語化現象研究会、2025年6月21日、大阪大学豊中キャンパス（ハイブリッド）
- 第93回多言語化現象研究会、2025年12月6日、大阪大学豊中キャンパス（ハイブリッド）

〔その他の活動〕

〈管理運営〉広報・社会貢献検討委員会委員、図書委員会委員、紀要編集委員会委員、安全衛生委員会委員、カリキュラム開発オフィス員

〈学会活動〉日本言語政策学会大会委員、多言語化現象研究会運営委員

〈市民向け講座・講演〉

- 大阪大学市民講座2025「複言語学習のススメ」大阪大学D3センター主催、2025年8月20日、講師（タタール語担当）

佐藤 彰 (SATO Akira) 准教授

〔教育活動〕

〈研究科担当科目〉社会言語学研究A・B、コミュニケーション論特別研究A・B

〈共通教育担当科目〉総合英語（Liberal Arts & Sciences）

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉談話分析、社会言語学、語用論

〈所属学会〉International Pragmatics Association、社会言語科学会、言語文化学会

〔研究業績〕

〈研究発表・講演・学会報告〉

・ Akira Satoh. 2025. A discourse study of leaders' speeches and their reports in the early stages of the invasion of Ukraine: The case of Japan. Presented at the 19th International Pragmatics Conference, the University of Queensland, Brisbane, Australia.

〈研究助成〉

・ 科学研究費補助金「有事における指導者とその報道の談話分析的研究」研究代表者

〔その他の活動〕

〈管理運営〉講座代表者（コミュニケーション論講座）、入試委員会委員（コミュニケーション論講座）、入試委員会委員（全学）、入試科目別連絡委員会委員長（全学）

〈学会活動〉メディアとことば研究会役員

秦 かおり (HATA Kaori) 教授

〔教育活動〕

〈研究科担当科目〉社会言語学研究A、コミュニケーション論特別研究A

〈共通教育担当科目〉総合英語（PB）

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉排除と差別の語用論、ナラティブ研究、マルチモーダル研究、社会言語学、移民の縦断調査

〈所属学会〉日社会言語科学会、国際語用論学会、日本英語学会、日本社会学会、日本語用論学会、メディア学会、

カルチュラル・スタディーズ学会

〈研究助成〉

・科学研究費基盤 C「差別と排除のコミュニケーション：移民の語りにみる多文化共生社会への課題と提言」研究

代表者、2025 年度～2029 年度

・国語研究所共同研究プロジェクト「多世代会話コーパスに基づく話し言葉の総合的研究」、共同研究員、研究

代表者：小磯花絵（国立国語研究所）、2022～2027 年度

〔その他の活動〕

〈学会活動〉日本語用論学会評議員、日本語用論学会会長、メディアとことば研究会世話人

村岡 貴子 (MURAOKA Takako) 教授

〔教育活動〕

〈研究科担当科目〉コミュニケーション論 A・B、言語技術研究 A・B

〈共通教育担当科目〉専門日本語

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉日本語アカデミック・ライティングの学習と教育に関する研究、専門日本語教育研究

〈所属学会〉日本語教育学会、専門日本語教育学会、社会言語科学会、日本文体論学会、異文化間教育学会

〔研究業績〕

〈論文〉

・村岡貴子・Soysuda Na Ranong (2026) 「タイの大学教員による研究指導の困難点と課題 ―指導大学院生の研究テーマ決定過程に着目して―」 『大阪大学国際機構研究論集』第 30 号, pp.59-70.

〈研究発表・講演・学会報告〉

・村岡貴子 (2026) 「趣旨説明 ―日本語書記言語コミュニケーション研究の最前線から新たな教育開発へ―」第 18 回大阪大学専門日本語教育研究協議会 「日本語による書記言語コミュニケーションとその教育・学習支援の展望 ―学習者作文研究の成果共有から教育開発の新たな可能性を探る―」2026 年 2 月 17 日, 大阪大学.

・村岡貴子 (2026) 「専門日本語教育学会の理念」(シンポジウム「専門日本語教育とは何か」) 『第 28 回専門日本語教育学会研究討論会誌』p.1, 2026 年 3 月 6 日, 大阪大学.

・ニン レン・村岡貴子「中国の大学入学試験に備える高校日本語教員が持つ作文教育観 ―広東省の教員の事例をもとに―」 『第 28 回専門日本語教育学会研究討論会誌』pp.7-8, 2026 年 3 月 6 日.

・村岡貴子・Soysuda Na Ranong (2026) 「タイの大学教員による研究指導の困難点と課題 ―大学院生による研究テーマ決定後の事例分析―」 『第 2 回タイ国日本語教育国際シンポジウム発表要旨集』 pp. 65-66.

〈研究助成〉

・科学研究費補助金基盤研究(C)課題番号:25K04210 令和 7 年度～令和 9 年度「論文執筆能力向上を目指す大学院生のための論文スキーマ形成を促す研究支援方法の開発」研究代表者

・科学研究費補助金基盤研究(C)課題番号:24K06106 令和 6 年度～令和 8 年度「アカデミック・ライティングの初年次教育から専門課程への接続に関する基礎的調査」研究分担者

・科学研究費補助金基盤研究(A)課題番号:21H04417 令和 3 年度～令和 7 年度「海外縦断作文コーパスの構築に

基づく文章算出能力の発達過程の実証的研究」研究分担者

・科学研究費補助金基盤研究(B)課題番号:21H00537 令和 3 年度~令和 7 年度「アジア圏留学生の学修・キャリア支援教育における総合的支援に関する学際的研究」研究分担者

〈受賞〉

・2024 年度日本語教育学会 学会活動貢献賞

〈主たる実施者となって開催した学会〉

・第 28 回専門日本語教育学会研究討論会、2026 年 3 月 6 日（大阪大学豊中キャンパス大阪大学会館）

〈主たる実施者となって開催した研究会〉

・第 18 回大阪大学専門日本語教育研究協議会「日本語による書記言語コミュニケーションとその教育・学習支援の展望 ―学習者作文研究の成果共有から教育開発の新たな可能性を探る―」2026 年 2 月 17 日、大阪大学

〔その他の活動〕

〈管理運営〉教育課程委員会委員、国際機構教務委員会委員長

〈学会活動〉専門日本語教育学会第 28 回研究討論会実行委員会委員長、社会言語科学会編集委員会、日本語教育学会査読・運営協力員、国立国語研究所共同研究プロジェクト「多様な言語資源に基づく日本語非母語話者の言語運用の応用的研究 日本語学習者の作文の縦断コーパス研究」プロジェクト構成員、国立国語研究所共同研究プロジェクト「多言語・多文化社会における言語問題に関する研究」プロジェクト構成員

劉 鵬 (LIU Biao) 准教授

〔教育活動〕

〈研究科担当科目〉語用論研究 A（水 2、春～夏学期）、語用論研究 B（水 2、秋～冬学期）

〈共通教育担当科目〉中国語中級（火 2、春～夏学期）、中国語中級（火 2、秋～冬学期）、中国語中級（木 2、春～夏学期）、中国語中級（金 3、春～夏学期、吹田開講）、中国語初級 I（水 1、春～夏学期）、中国語初級 II（水 1、秋～冬学期）、国際コミュニケーション演習・中国語（火 3、春～夏学期）、国際コミュニケーション演習・中国語（木 1、春～夏学期）、国際コミュニケーション演習・中国語（木 1、秋～冬学期）

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉言語行為論、対人語用論、指示語用論

〈所属学会〉日本中国語学会、日中対照言語学会、大阪大学言語文化学会

〔研究業績〕

〈論文〉

・董玉婷・劉鵬、「中国語を学習する日本語母語話者による『依頼』ストラテジーに関する予備的研究」、『異文化コミュニケーション研究』、第 18 号、63-74、2026 年 3 月（査読有）

〈研究発表・講演・学会報告〉

・劉鵬・孫盈盈・宋雨潤、「談話の世界における照応の諸相―再帰代名詞と連想照応をめぐる事例研究」、『第 65 回中日理論言語学研究会』、2025 年 9 月 28 日（招待有）

〔その他の活動〕

〈管理運営〉

・言語文化研究科言語文化専攻内：大学院教務委員会委員、博士学位論文受理検討委員会委員、公開講座検討WG委員

・コミュニケーション論講座内：教務委員、公開講座委員、入試委員（専門B）、説明会委員

・中国語部会内：広報委員

〈学会活動〉

・日本中国語学会編集委員会委員

・日中対照言語学会理事、編集委員会委員

・学術雑誌『現代中国語研究』編集委員会委員

【第二言語教育学講座】

今尾 康裕 (IMAO Yasuhiro) 教授

<https://sites.google.com/site/casualconcj/>

〔教育活動〕

〈研究科担当科目〉応用言語学研究 A・B、応用言語学研究 A・B

〈共通教育担当科目〉総合英語 (Academic Skills)

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉テキスト分析ツール開発, 言語テスト, 英語教育, 英語アカデミックライティング

〈所属学会〉日本言語テスト学会, 外国語教育メディア学会, 英語コーパス学会

〔研究業績〕

〈アプリケーション開発〉

・CasualConc 4.0 (テキスト分析ツール)

・CasualTranscriber 3.0 (文字おこし補助ツール)

〈研究発表・講演・学会報告〉

・今尾康裕・藤田郁 「CasualConc で始めるトピックモデリング入門」英語コーパス学会第51回大会ワークショップ, 大阪大学, 9月2日

・今尾康裕 「1日で極める CasualConc の新機能」英語コーパス学会 ESPSIG 研究会ワークショップ, 1月11日

〈オンラインチュートリアル〉

・CasualConc チュートリアル, <https://sites.google.com/site/casualconcj/>

〈研究助成〉

・高性能テキスト分析アプリケーションの進化とタブレット端末への展開 (科学研究補助金・基盤研究 C, 研究代表者, 2024-2028 年度)

〔その他の活動〕

〈学会活動〉Asian Association for Language Assessment, コミュニケーション担当理事, 外国語教育メディア学会関西支部運営委員, 英語コーパス学会理事・学会賞選考委員

〈主たる実施者となって開催した学会〉

- ・英語コーパス学会第51回大会, 大会実行委員, 9月2-3日, 大阪大学

岩居 弘樹 (IWAI Hiroki) 教授

〔教育活動〕

〈研究科担当科目〉第二言語教育実践研究A・B、第二言語教育学特別研究A・B

〈共通教育担当科目〉地域言語文化演習（ドイツ語）

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉ICTを活用した外国語教授法, 複言語学習, 教育工学

〈所属学会〉日本外国語教育推進機構, 日本教育工学会, 外国語教育メディア学会, 日本デジタル教科書学会, 日本独文学会, 日本独文学会ドイツ語教育部会

〔研究業績〕

〈論文〉

・大前智美, 岩居弘樹, 「オンライン複言語学習の実践と教材化の可能性-Padletを活用して-」, 『2025 PCカンファレンス論文集』, pp. 294-297, 2025年8月

・大前智美, 岩居弘樹, 「AI×Book Creatorの活用-大学初級外国語授業におけるアウトプットの実践-」, 『日本教育工学会2025年秋季全国大会 講演論文集』, pp. 45-46, 2025年9月

・山岡正和, 首藤美也子, 大前智美, 岩居弘樹, 「情報活用能力の育成×複言語学習」の試みー「ワクワク」が「循環」するSTEAM教育の導入ー, 『デジタル教科書研究』, No. 12, pp. 12-16, 2025年12月

〈研究発表・講演・学会報告〉

・岩居弘樹, 「教育アプリ×DXで変わるこれからの大学教育」, 富山大学教養教育院FD, 2025年9月1日

・Hiroki Iwai, "KI im Unterricht", Goethe Institut (@Kobe University), 2025年10月20日

・大前智美, 岩居弘樹, 「iPad Café」, 外国語教育メディア学会第64回年次研究大会, 2025年11月23日

・岩居弘樹, 大前智美, 「AIで変わる授業づくり」, 上智大学外国語学部FDワークショップ, 2026年1月28日

・岩居弘樹, 大前智美, 「小学校における複言語・複文化学習のための交流授業の実践」, JACTFL 第14回シンポジウム外国語教育の未来(あす)を拓く ～共感をはぐくむ複言語教育, 2026年3月8日

・岩居弘樹, 「複言語学習を支援するAI発音評価の予備的検証」, JACTFL 第14回シンポジウム外国語教育の未来(あす)を拓く ～共感をはぐくむ複言語教育, 2026年3月8日

・大前智美, 岩居弘樹, 「ICT・AIを活用した外国語学習 入門から最新事例まで「40分で体験! AIで作る外国語学習アプリ作成 (Gemini Canvas 入門)」, 2025年度e-Learning教育学会 研究大会, 2026年3月14日

〈研究助成〉

・科研費基盤研究(C) VR空間における「学び合いの場」の構築による外国語学習モデルの研究開発(研究分担者)

〔その他の活動〕

〈管理運営〉

〈社会貢献活動〉

- ・「複言語学習のすすめ」@岡山市立芥子山小学校 2025年5月～2025年10月 (13回)

・「複言語学習のすすめ」@備前市立吉永小学校 2025 年 9 月～2025 年 10 月（3 回）

・「複言語学習のすすめ」@交野市教育委員会 2025 年 8 月 18 日

〈市民向け講座・講演〉

・市民講座「複言語学習のススメ」2025 年 8 月～2026 年 1 月（6 回）

大谷 晋也 (OTANI Shinya) 准教授

〔教育活動〕

〈研究科担当科目〉第二言語社会・文化研究 A・B

〈共通教育担当科目〉多文化コミュニケーション（日本語）、学問への扉（多文化コミュニケーションセミナー）、アドヴァンストセミナー、専門日本語、International Communication Seminar (Japanese)203、International Communication Seminar (Japanese) 600e

〈学部教育担当科目〉第二言語社会・文化研究 a・b

〈国際交流科目担当科目〉総合日本語 JA200、日本語・グローバル理解演習（Japanese and Global Understanding）

600e

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉多文化・グローバル教育としての異言語（日本語）教育、言語教育政策、外国人医療支援に関する諸問題、日本古典文学データベース

〈所属学会〉日本語教育学会

〔その他の活動〕

〈管理運営〉国際機構専任教員、国際機構研究倫理審査委員会委員長、国際機構財務準備委員会委員、マルチリンガル教育センター運営委員会委員、同カリキュラム委員会委員、マチカネにほんご交流会・竹の子にほんご交流会担当教員

〈社会貢献活動〉医療事務連絡会（箕面市等）委員、みのお外国人医療サポートネット運営委員（2025 年 6 月まで）、NPO 法人みのお外国人医療サポートネット監事（2024 年 12 月より）

大前 智美 (OMAE Tomomi) 准教授

〔教育活動〕

〈研究科担当科目〉第二言語教育実践研究 A・B

〈共通教育担当科目〉地域言語文化演習（ドイツ語）

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉外国語教育、ICT 支援外国語教育・学習、複言語学習

〈所属学会〉日本独文学会ドイツ語教育部会、e-Learning 教育学会、外国語メディア教育学会、コンピュータ利用教育学会、日本外国語教育推進機構

〔研究業績〕

〈論文〉

・大前智美, 岩居弘樹, 「オンライン複言語学習の実践と教材化の可能性-Padlet を活用して-」, 『2025 PC カン

ファレンス論文集』， pp.294-297， 2025 年 8 月

・大前智美, 岩居弘樹, 「AI×Book Creator の活用ー大学初級外国語授業におけるアウトプットの実践ー」, 『日本教育工学会 2025 年秋季全国大会 講演論文集』, pp.45-46, 2025 年 9 月

・山岡 正和, 首藤 美也子, 大前 智美, 岩居 弘樹, 「「情報活用能力の育成×複言語学習」の試みー「ワクワク」が「循環」する STEAM 教育の導入ー」, 『デジタル教科書研究 12 巻』, pp.1-16, 2025 年 10 月

・山岡正和, 大前智美, 「Reality Composer × 複言語学習の実践」, 『コンピュータ&エデュケーション 59』, pp.88-91, 2025 年 12 月

〈研究発表・講演・学会報告〉

・大前智美, 岩居弘樹, 「オンライン複言語学習の実践と教材化の可能性-Padlet を活用してー」, 2025 PC カンファレンス, 2025 年 8 月 22 日

・大前智美, 岩居弘樹, 「AI×Book Creator の活用ー大学初級外国語授業におけるアウトプットの実践ー」, 日本教育工学会 2025 年秋季全国大会, 2025 年 9 月 27 日

・大前智美, 「「創る学び、伝える力 : 外国語教育×デジタル表現」, 2025★沖大シンポジウム「先端技術と語学教育の未来」, 2025 年 11 月 1 日

・大前智美, 岩居弘樹, 「iPad Café」, 外国語教育メディア学会第 64 回年次研究会, 2025 年 11 月 22 日

・大前智美, 岩居弘樹, 「小学校における複言語・複文化学習のための交流授業の実践」, JACTFL 第 14 回シンポジウム, 2026 年 3 月 8 日

・大前智美, 岩居弘樹, 「ICT・AI を活用した外国語学習 入門から最新事例まで「40 分で体験! AI で作る外国語学習アプリ作成 (Gemini Canvas 入門)」」, 2025 年度 e-Learning 教育学会 研究大会, 2026 年 3 月 14 日

〈研究助成〉

・基盤研究 C, 「人と人をつなぐ学びのコミュニティと ICT 支援言語学習モデルの構築」(課題番号 25K04260), 2025 年～2027 年

・基盤研究 C, 「メタバースにおける AI を活用した外国語教育の実証的研究」(課題番号 25K04261), 研究分担者, 2025 年～2027 年

〈主たる実施者となって開催した学会〉

・2025 年度 e-Learning 教育学会研究大会, 2026 年 3 月 14 日, 九州大学

〈主たる実施者となって開催した研究会〉

・2025★沖大シンポジウム「先端技術と語学教育の未来」, 2025 年 11 月 1 日, 沖縄大学

[その他の活動]

〈管理運営〉 D3 センター PLS

〈学会活動〉 e-Learning 教育学会 会長, 外国語教育メディア学会関西支部運営委員

〈社会貢献活動〉世界の言葉プロジェクト(複言語・複文化学習): 岡山市立芥子山小学校, 備前市立吉永小学校, 寝屋川市教育委員会

〈市民向け講座・講演〉市民講座 2025 複言語学習のススメ

岡田 悠佑 (OKADA Yusuke) 准教授

<https://sites.google.com/site/liloarise2690/>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉第二言語研究法A・B、第二言語教育学特別研究A・B

〈共通教育担当科目〉総合英語 (Project-based English)

[研究活動]

〈研究テーマ〉会話分析、英語教育、法の社会言語学

〈所属学会〉大学英語教育学会

[研究業績]

〈論文〉

・岡田悠佑 (2024). 「非難の相互行為的達成—TikTok CEO に対する米議会公聴会の場面意味論—」 『応用会話分析研究 2024: 政治経済が以降の相互行為実践 2 (言語文化研究科共同プロジェクト 2024)』 1-12.

〈研究発表・講演・学会報告〉

・岡田悠佑 (2025 年 7 月) 「コメント: Socialization in the Transitions」 大阪大学グローバル日本学教育研究拠点研究ワークショップ 2025 年 7 月例会 「Socialization in the Transitions」 (ディスカッサント)

・岡田悠佑 (2025 年 11 月) 「会話分析を用いた「ことば」の研究入門」 立命館大学大学院言語教育情報研究科「日本語教育学 10 (日本語を対象とした語用論と談話分析)」 特別講義 (招待講義)

・岡田悠佑 (2025 年 11 月) 「コメント: グレゴリー・ケズナジャットの芥川賞候補作を学際的に読む」 大阪大学人文学林シンポジウム「グレゴリー・ケズナジャット の芥川賞候補作を学際的に読む」 (シンポジウム登壇者)

・岡田悠佑 (2025 年 12 月) 「拡張発話を用いた議論の転換: 英語ディベート・ディスカッションの指導に向けた米国議会公聴会の会話分析」 第 7 回 JAAL in JACET (日本応用言語学会) 学術交流集会

〈研究助成〉

・科研費基盤 C 「アメリカ議会公聴会の会話分析を介したハイエンド英語語用論的能力の解明と教材開発」

[その他の活動]

〈管理運営〉多文化共修科目開発チーム WG 委員

〈社会貢献活動〉放送大学大阪学習センター面接授業講師

金澤 佑 (KANAZAWA Yu) 准教授

<https://researchmap.jp/ku-kanazawa/goldstream>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉第二言語教育実践研究 A、第二言語教育実践研究 B、研究実践基礎、研究発表演習

〈共通教育担当科目〉総合英語 (Content-based English)

[研究活動]

〈研究テーマ〉感情、エピステミック情動、語彙・定型表現学習、認知科学、質的研究、外国語教育学

〈所属学会〉外国語教育メディア学会 (LET)、LET 関西支部基礎理論研究部会 (LET-FMT-SIG)、日本哲学プラクティス学会 (JSPP)、全国語学教育学会 (JALT)、JALT CALL SIG、日本感情心理学会 (JSRE)、アメリカ

応用言語学会 (American Association for Applied Linguistics [AAAL]) 、国際言語学習心理学会 (The International Association of the Psychology of Language Learning [IAPLL]) 、大学英語教育学会 (JACET) 、全国英語教育学会 (JASELE) 、関西英語教育学会 (KELES) 、日本第二言語習得学会 (J-SLA) 、ことばの科学会 (JSSS) 、国際応用言語学会 (Association Internationale de Linguistique Appliquee [AILA]) 、日本自律学習学会 (JASAL) 、日本多読学会 (JERA) 、日本ケースセンター、The Case Centre、Harvard Business Publishing Education Teaching Center、日本質的心理学会 (JAQP) 、Society for Affective Science (SAS)、Education, Languages and Internationalisation Network (ELINET)、英語教育総合学会、日本英語教育学会、日本ビジネスコミュニケーション学会

〔研究業績〕

〈論文〉

- ・Kanazawa, Y. (2025). Emotion, positivity, and beyond: Three hypotheses on micro-level emotions in foreign language learning. *Second Language*, 24, 51–66.
- ・ Kanazawa, Y. (2025). Academic Yurigai, assemble! Uniting engagement, motivation, enjoyment, well-being, and ikigai under Academic Yurigai. *Gengo Bunka Kyodo Kenkyu Project*, 2024, 17–25.
- ・ 金澤 佑. (2025). 「やりがい感を伴うアカデミックな活動における感情体験—大学生を対象とした調査—」 『感情心理学研究』 33(Supplement), OS18.

〈書評・論評・紹介〉

- ・ Kemp, N. (2026). *A year of ikigai: Finding everyday purpose through Japanese wisdom*. Rock Point. へのインタビュー記事の記載。

〈研究発表・講演・学会報告〉

- ・ Kanazawa, Y., & Kamenická, J. (2025, May 18). Brain-based emotion-involved activities enhancing agency and autonomy [Paper presentation]. JALT PanSIG 2025 Conference, Chiba, Japan.
- ・ Otake, S., & Kanazawa, Y. (2025, June 8). Incidental learning of nonwords in emotionally valenced contexts: The role of epistemic emotions and semantic patterns in recall [Paper presentation]. 2025 Kansai English Language Education Society 31st Annual Conference, Kyoto, Japan.
- ・ Kanazawa, Y. (2025, June 22). Theories and practices of epistemic emotions in active learning. In Kanazawa, Y. (Host), Active Learning × Epistemic Emotion Day, Public Meeting of LET-FMT-SIG & ELINET Japan [Public event]. LET-FMT-SIG & ELINET Japan. Online.
- ・ Kanazawa, Y., Rakhshandehroo, M., Lafleur, L., Otake, S., Shinhara, Y. (2025, July 3-4). Meet the Japan Branch [Poster Presentation]. The 3rd Annual ELINET Conference. The University of Oxford, Oxford, UK.
- ・ Kanazawa, Y. (2025). Foreign language enjoyment, anxiety, and Big Five traits: Insights from Osaka-based high-achieving undergraduates. Proceedings of the 50th Conference of the Japan Society of English Language Education (JASELE50; pp. 516-517).
- ・ Kanazawa, Y., & Otake, S. (2025, September 6). What makes a book yomigai-laden? Student perspectives on reading fulfillment [Paper presentation]. Extensive Reading World Congress 7, Hokusei Gakuen University, Sapporo, Japan.
- ・ Kanazawa, Y., & Kamenická, J. (2025, September 24). International development of a Q-sort concourse for the important elements of compassion-based language education [Paper presentation]. The 41st annual conference of the International Society

for the Scientific Study of Subjectivity, Grenoble School of Management, Grenoble, France / Online.

・ Kanazawa, Y. (2025, October 19). Autoethnography as epistemic action: A Free Energy Principle perspective [Poster presentation]. The 22nd Conference of the Japan Association of Qualitative Psychology, Hiroshima University, Hiroshima, Japan.

・ Kamenická, J., Kanazawa, Y., & Otake, S. (2025, October 24). Epistemic emotions: Drivers of foreign language brain-based learning [Paper presentation]. Challenges of Foreign Language Teaching XI: The Changing Landscape of ELT, J.E. Purkyně University, Ústí nad Labem, Czech Republic.

・ 金澤 佑. (2025 年 10 月 26 日). やりがい感を伴うアカデミックな活動における感情体験：大学生を対象とした調査. 日本感情心理学会第 33 回大会, 宇都宮, 日本 = Kanazawa, Y. (2025, Oct. 26). Emotional experiences in yarigai-filled academic activities [Paper presentation]. 33rd Conference of the Japan Society for Research on Emotions, Utsunomiya, Japan.

・ Kanazawa, Y. (2025, November 23). A Tale of Two Curiosities: Divergent and specific epistemic curiosity in EFL learners [Paper presentation]. The 64th Annual Conference of the Japan Association for Language Education & Technology, Kansai University, Osaka, Japan.

・ Otake, S., Kanazawa, Y., & Kamenická, J. (2025, December 6). Picture-promoted creative discussion and vocabulary acquisition: Epistemic emotion vs. positive emotion [Paper presentation]. JAAL in JACET 2025 Conference, Ritsumeikan University OIC, Osaka, Japan.

・ 金澤 佑, & ブマザ, ドウジャ. (2026 年 3 月 6 日). 「自己を語る」から「自己を直観する」へ：ベルクソン哲学とオートエスノグラフィー [オンライン国際シンポジウム発表]. オートエスノグラフィーとナラティブに関する国際シンポジウム 2026 (ISAN 2026), オンライン (Zoom).

・ Kanazawa, Y., McLean, S., Raine, P., Lafleur, L., Otake, S., Matsuo, T., Isobe, Y., Kadota, S., Morishita, M., Sato, H., & Sugiura, K. (2026, March 8). Assessing Japanese EFL learners' knowledge of formulaic sequences on an open-access web platform: Familiarity vs. frequency across three test modes [Conference presentation]. The 56th Annual Joint Meeting of JELES: English Language Education Society of Japan and Japanese Association for Educational Linguistics (JELES-56), Waseda University & Online, Tokyo, Japan.

・ Kanazawa, Y. (2026, March 21). Destigmatizing boredom: From passive disengagement to proactive academic self-regulation and epistemic action [Individual paper presentation]. American Association for Applied Linguistics 2026 (AAAL2026) Conference, Chicago, IL, USA.

〈研究助成〉

・ Epistemic Emotions in Foreign Language Learning: Psychological Investigation and Pedagogical Inquiry (日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究(C) : JP22K00806) 研究代表者 (PI)

〈調査活動〉

・ 神戸学院大学での英語学習者を対象とした実証研究の実施 (春夏学期)

〈受賞〉

・ 令和 7 年度大阪大学賞 (若手教員部門)

〈国際共同研究実施状況〉

・ Zpracování emocí při učení jazyka、共同研究者 (チェコの Jana Kamenická 先生(Univerzita J. E. Purkyně)との共同研

究の推進)

・ La philosophie de Bergson et l'autoethnographie、研究代表者 (フランスの Doudja Boumaza さん (Université Grenoble Alpes)との共同研究の推進)

〈分野横断的研究実施状況〉

・ 英語教育と感情心理学、研究代表者 (概要: 感情心理学 (実験心理学) の知見を英語教育研究に実証的に応用するプロジェクト) 研究協力者: 大竹 翔子 (実験心理学)、ヤナ・カメニツカ (英語教育・神経科学) 対象期間中のアウトカム: Kamenická, J., Kanazawa, Y., & Otake, S. (2025, October 24). Epistemic emotions: Drivers of foreign language brain-based learning [Paper presentation]. Challenges of Foreign Language Teaching XI: The Changing Landscape of ELT, J.E. Purkyně University, Ústí nad Labem, Czech Republic. ; Otake, S., Kanazawa, Y., & Kamenická, J. (2025, December 6). Picture-promoted creative discussion and vocabulary acquisition: Epistemic emotion vs. positive emotion [Paper presentation]. JAAL in JACET 2025 Conference, Ritsumeikan University OIC, Osaka, Japan.

・ 「思いやり」言語教育への質的心理学的アプローチ、研究代表者 (概要: 言語教育に関する「思いやり」に関する最新のウェルビーイングの知見を、質的心理学的 (Q メソッドロジー) を使って探究するところ) 研究協力者: ヤナ・カメニツカ (英語教育・神経科学) 対象期間中のアウトカム: Kanazawa, Y., & Kamenická, J. (2025, September 24). International development of a Q-sort concourse for the important elements of compassion-based language education [Paper presentation]. The 41st annual conference of the International Society for the Scientific Study of Subjectivity, Grenoble School of Management, Grenoble, France / Online.

・ ベルクソン哲学と質的心理学、研究代表者 (概要: 質的心理学研究にベルクソン哲学の知見を活かそうとするところ) 研究協力者: ドウジャ・ブマザ (ベルクソン哲学専門) 対象期間中のアウトカム: 金澤 佑 & ドウジャ・ブマザ. (2026 年 3 月 6 日). 「自己を語る」から「自己を直観する」へ: ベルクソン哲学とオートエスノグラフィー [学会発表]. オートエスノグラフィーとナラティブ国際シンポジウム 2026 (ISAN2026).

〈主たる実施者となって開催した学会〉

・ 外国語教育メディア学会 (LET) 第 64 回 (2025) 年次研究大会、2025 年 11 月 22 日 (土) ~23 日 (日)、関西大学千里山キャンパス 100 周年記念会館

〈主たる実施者となって開催した研究会〉

・ 外国語教育メディア学会関西支部基礎理論研究部会・ELINET 日本支部合同研究例会 (アクティブラーニングとエピステミック情動・デー)、2025 年 6 月 22 日、Zoom

・ 外国語教育メディア学会関西支部基礎理論研究部会研究例会 (オートノミー・デー)、2025 年 8 月 31 日、Zoom

・ 外国語教育メディア学会関西支部基礎理論研究部会研究例会 (ゲルマン・デー)、2025 年 9 月 27 日、Zoom

・ 外国語教育メディア学会関西支部基礎理論研究部会研究例会 (エモーション・デー No5)、2025 年 11 月 16 日、Zoom

・ 外国語教育メディア学会関西支部基礎理論研究部会・ELIPro Network 合同公開講演会 (EMI・世界諸英語・デー)、2026 年 2 月 14 日、大阪 & Zoom

・ 外国語教育メディア学会関西支部基礎理論研究部会研究例会 (語彙・デーNo4)、2026 年 3 月 29 日、Zoom

[その他の活動]

〈管理運営〉図書委員長、科研費相談員

〈学会活動〉外国語教育メディア学会（LET）本部 編集委員、外国語教育メディア学会（LET）関西支部 運営委員、外国語教育メディア学会（LET）2025 年度全国年次大会実行委員、大学英語教育学会（JACET）本部 社員、大学英語教育学会（JACET）関西支部 紀要編集委員、外国語教育メディア学会関西支部基礎理論研究部会（LET-FMT-SIG） 部会長、外国語教育メディア学会関西支部基礎理論研究部会（LET-FMT-SIG） プロジェクトリーダー、日本哲学プラクティス学会 編集委員、Sage Open 編集委員、ELIPro Network (旧称 ELINET) 日本支部長
〈社会貢献活動〉

『英語教育研究』論文審査委員、TESOL Quarterly 査読員、JALT CALL 査読員、『思考と対話』査読員、『大阪大学言語文化学』査読員、Judge for the Storytelling Competition, part of the Apresiasi Prestasi dan Seni (APSI) 2025 event. Hosted by the Indonesian Consulate, Tawau, Malaysia.

〈市民向け講座・講演〉

- ・ Kanazawa, Y. (Guest), & Kemp, N. (Host). (2025, November 28). Understanding Academic Yarigai with Yu Kanazawa (No. 117) [Audio podcast episode]. In The Ikigai Podcast. Ikigai Tribe.
- ・ Kanazawa, Y. (Guest), & Arriagada, F. (Host). (2026, January 30). The Science of Learning Podcast Episodio 2 (Parte 1): Las emociones en el aprendizaje de idiomas [Video podcast episode]. Núcleo Milenio para la Ciencia del Aprendizaje (MiNSoL).
- ・ Kanazawa, Y. (Guest), & Arriagada, F. (Host). (2026, February 7). The Science of Learning Podcast Episodio 2 (Parte 2): Integrar distintas disciplinas en la investigación [Video podcast episode]. Núcleo Milenio para la Ciencia del Aprendizaje (MiNSoL).
- ・ Kanazawa, Y. (Guest), & Arriagada, F. (Host). (2026, February 17). The Science of Learning Podcast Episodio 2 (Parte 3): ¿Cómo pueden las emociones influir en la forma en que procesamos la información? [Video podcast episode]. Núcleo Milenio para la Ciencia del Aprendizaje (MiNSoL).
- ・ Kanazawa, Y. (Guest), & Arriagada, F. (Host). (2026, February 26). The Science of Learning Podcast Episodio 2 (Parte 4): Emociones positivas y recuerdos más duraderos [Video podcast episode]. Núcleo Milenio para la Ciencia del Aprendizaje (MiNSoL).
- ・ Kanazawa, Y. (Guest), & Arriagada, F. (Host). (2026, March 18). The Science of Learning Podcast Episodio 2 (Parte 5): Ikigai: Encontrar propósito y bienestar en la vida académica [Video podcast episode]. Núcleo Milenio para la Ciencia del Aprendizaje (MiNSoL).
- ・ Kanazawa, Y. (Guest), & Arriagada, F. (Host). (2026, March 31). The Science of Learning Podcast Episodio 2 (Parte 6): Encontrar tu identidad en la investigación [Video podcast episode]. Núcleo Milenio para la Ciencia del Aprendizaje (MiNSoL).

KIM Miso 講師

〔教育活動〕

〈共通教育担当科目〉総合英語 (Academic skills)

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉トランスランゲージング、言語教師アイデンティティ、アクションリサーチ、質的研究方法

〈所属学会〉AsiaTEFL, Japan Association for Language Teaching, 大学英語教育学会, American Association of Applied Linguistics

[研究業績]

〈編著〉

・ Kim, M. & Chaikul, R. (2025). Principle and philosophy of professional development in an ELF program. In T. Ishikawa, P. McBride & A. Suzuki (Eds.), *Developing ELF programmes for language teaching: Innovation, resistance, and applications* (pp. 171–188). De Gruyter Brill. <https://doi.org/10.1515/9783111295411-011>

〈論文〉

・ Kim, M., Yao, Y., & Lin, W. J. A. (2025). “Can you teach English? Hontou?”: A trioethnography of “freak” teachers translanguaging for social justice in Japan. *Journal of Education, Language, and Ideology*, 3(2), 305–333. <https://jelipublication.org/index.php/jeli/article/view/66>

・ Kim, M., Kim, S., & Cho, E. (2025). Using collaborative autoethnography for teacher and teacher educator development: Creating a mediational space for the life–reflection–dialogue–research cycle. *TESOL Quarterly*, 59(S3), S79–S104. <https://doi.org/10.1002/tesq.70029>

〈研究発表・講演・学会報告〉

・ Kim, M. (2025, August). Translanguaging and technology for promoting DEI: An action research on classroom assemblage. Paper presentation at JACET 2025, Tokyo, Japan.

・ Kim, M. (2025, July). Promoting diversity, equity, and inclusion in Japan: An action research on translingual identities and pedagogy. Paper presentation at AsiaTEFL 2025, Hong Kong, SAR.

・ Kim, M. (2025, April). Autoethnography for reflective practice, self-care, and professional development. Workshop at Kobe JALT, Kobe, Japan.

〈研究助成〉

・ 日本科学研究費助成事業（科研費）（若手研究）「Fostering English communicative competence through translanguaging to promote diversity, equity, and inclusion」（課題番号：23K12242）

[その他の活動]

〈市民向け講座・講演〉

・ Kim, M. (2025, September). Diversity through English: Designing a college-level English class based on translanguaging (英語を通して出会う多様性: トランスランゲージングを活用した日本の大学英語授業づくり). Invited lecture at LC seminar 2025, Osaka, Japan (Online).

中俣 尚己 (NAKAMATA Naoki) 准教授

<http://nakamata.info/>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉応用言語学研究 A・B

[研究活動]

〈研究テーマ〉計量言語学および日本語教育への応用

〈所属学会〉関西学会、日本語文法学会、日本語学会、中国語話者のための日本語教育研究会、日本語教育学会、第二言語習得研究会、社会言語科学会、計量国語学会、日本語/日本語教育研究会、言語処理学会

[研究業績]

〈論文〉

・松下達彦・岩下智彦・新井智大・ABUELLI Nora・田中祐輔・中俣尚己・スルダノヴィッチ, イレーナ・松田真希子・劉瑞利・陳夢夏・柏野 和佳子・石黒 圭・橋本直幸・小熊 利江「日本語教育のための初級語彙をどう定めるべきか」『国立国語研究所論集』29, 2025 年 7 月

・中俣尚己「探索的因子分析による日本語文体の抽出」近藤泰弘・澤田淳『日本語文法研究の射程 テキスト・文体・文学との交差』pp.16-51, 開拓社, 2025 年 12 月

〈書評・論評・紹介〉

・中俣尚己、「リレー連載 中国語話者のための日本語教育 11 コーパスと日本語教育」webjapanese.com『WJ MAGAZINE』、<https://webjapanese.com/magazine/archives/12359>、2025 年 9 月

・中俣尚己、「IT を活用した日本語研究と生成 AI の利用」日本語教育学会（監修）『現代日本語教育ハンドブック』pp.84-92、大修館書店、2025 年 12 月

・中俣尚己、「日本語話題別会話コーパス：J-TOCC 解説資料 第 2 版」、http://nakamata.info/database/j-tocc_document.pdf、2026 年 2 月

・中俣尚己、「日本語話題別会話コーパス」、『日本語学』45(1)、pp.74-75、明治書院、2026 年 3 月

・中俣尚己、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」、『日本語学』45(1)、pp.88-97、明治書院、2026 年 3 月

〈研究発表・講演・学会報告〉

・Naoki NAKAMATA, (Panel *Exploring data (and methodologies) in pragmatics*) Topic, Familiarity and Discourse Patterns: Insights from a Topic-Oriented Corpus、19th International Pragmatics Conference、2025 年 6 月 24 日

・中俣尚己、講演「日本語研究におけるコーパスの利活用」、中国石油大学、2025 年 9 月 25 日

・山崎誠、柏野和佳子、中俣尚己、「話題から始まる日本語教育を考える」計量国語学会第 69 回大会、2025 年 9 月 27 日

・中俣尚己、清水 由貴子、建石 始、王 静怡、交流ひろば「協働で作る『文法コロケーションハンドブック E』ブログ版」、日本語教育学会 2025 年度秋季大会、2025 年 11 月 22 日

・中俣尚己、「日本語文法研究はデータをどのように扱ってきたか?」、日本語文法学会第 25 回大会、2025 年 12 月 21 日

〈研究助成〉

・研究代表者「「話題から始まる日本語教育」を支援する情報サイトの構築と話題別会話コーパスの拡充」(日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(B))

・研究分担者「文章の語彙レベルの学習者適合度の判定方法の開発 ―日本語教育・国語教育への応用―」(日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(A)、研究代表者：松下達彦)

・研究分担者「聴解コーパスの構築による日本語学習者の聴解困難点と推測技術の実証的研究」(日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(B)、研究代表者：野田尚史)

・研究分担者「外国人高校生の中退率 7.4 倍を改善する多言語対応版数学動画コンテンツの開発と普及」(日本学術振興会 科学研究費助成事業 挑戦的研究(萌芽)、研究代表者：黒田 恭史)

[その他の活動]

〈学会活動〉日本語教育学会副会長・学会誌委員（編集担当）、計量国語学会理事（編集委員会）、日本語文法学会評議員、日本語学会「中高生日本語コンテスト」実行委員、中国語話者のための日本語教育研究会顧問・事務局（HP 担当）、日本語／日本語教育研究会学会誌委員、関西日本語研究会世話人

西田 理恵子 (NISHIDA Rieko) 教授

<https://rienishi.jimdo.com/>

〔教育活動〕 〈研究科担当科目〉第二言語教育法 A、応用言語学研究論 B

〈共通教育担当科目〉総合英語 (Content-based English)

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉応用言語学研究（動機づけ、情意要因）、英語教育、方法論

〈所属学会〉大学英語教育学会、外国語教育メディア学会、全国英語教育学会、小学校英語教育学会、International Association for the Psychology of Language Learning (IAPLL)

〔研究業績〕

〈論文〉

・ Nishida, R., & Takagi, T. (2026). Social Factors Influencing Junior High School Students' Motivation and Engagement in the Japanese EFL Context. *LET Kansai Chapter Collected Papers*, 24, 25-46.

・西田理恵子 (2025). 言語教師のウェルビーイングに関する質的研究：パイロット調査. 大阪大学大学院言語文化共同研究プロジェクト 2024.

〈書評・論評・紹介〉

・西田理恵子 (2026). 2025 年度外国語教育メディア学会学会賞受賞. 受賞者寄稿. 「学術賞を受賞して」. 外国語教育メディア学会 Newsletter.

〈研究発表・講演・学会報告〉

・西田理恵子 (2025.11). 大学英語学習者を対象としたエンゲージメントと情意：CLIL とテクノロジー. シンポジウム. 外国教育メディア学会. 関西大学. (招待)

・西田理恵子・廣森友人・天野修一・青山拓実 (2025.11). エンゲージメントとテクノロジーの接点. モデレータ. シンポジウム. 外国教育メディア学会. 関西大学. (招待)

・ Nishida, R.(2025). Examining Motivation-related Variables Before and During the COVID-19 Pandemic in the Japanese Context. The Asian Conference on Education (ACE2025). November 23-28, 2025. Online.

・ Nishida, R. (2025). "Influence of International Posture on Motivation and Engagement for Japanese Junior High School Students." The Barcelona Conference on Arts, Media & Culture (BAMC2025). Barcelona, Spain. Online.

・ Nishida, R. (2025). Influence of international posture on engagement and motivation for Japanese university students: perspectives of translanguaging. 八島ゼミ発表会. 2025 年 9 月. オンライン.

・ Nishida, R. & Yashima, T. (2025). Exploring university students' engagement and motivation in CLIL vs. Non-CLIL: A preliminary study", The 64th JACET International Convention Waseda University.

〈研究助成〉

・ 2024 年 4 月～2027 年 3 月（代表）基盤研究(C)24K04105 「大学英語学習者における内容言語統合型学習に関す

る国際的志向性を基盤とした実証研究」

〈調査活動〉

・枚方市長尾中学校の協力のもと、中学校1年生から中学校3年生を対象に中学生のエンゲージメントと動機づけに関する調査を行っている。

〈受賞〉

・西田理恵子 (2025). 外国語教育学メディア学会 学術賞受賞. 対象業績「日本人英語学習者における動機づけと情意要因に関する実証研究」

〔その他の活動〕

〈管理運営〉広報社会貢献検討委員会委員、LC セミナー運営委員.

〈社会貢献活動〉The Asian Conference on Education (ACE2025) 国際学会・査読員. Psychology of Language Learning (PLLJ) 主催・運営.

日本学術振興会 特別研究員等審査会審査委員, 日本学術振興会 国際事業委員会書面審査員

西出 佳詩子 (NISHIDE Yoshiko) 准教授

〔教育活動〕

〈研究科担当科目〉第二言語教育方法論 A・B、人文学林人文学実務研究

〈共通教育担当科目〉ドイツ語初級 I・II、ドイツ語中級、地域言語文化演習（ドイツ語）I～IV

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉大学教育における多分野間協働＜専門分野と外国語教育の連携＞, ドイツ語学習者の読みのストラテジー習得の実証研究, ドイツ語の授業における協働学習の実態と効果の実証研究, ドイツにおけるドイツ語教育の諸相（主に読解と作文教育を中心に）, ドイツ語圏における *Leichte Sprache* の普及と実用化

〈所属学会〉日本独文学会、日本独文学会ドイツ語教育部会、ドイツ文法理論研究会、阪神ドイツ文学会、大学英語教育部会、大阪大学言語文化学会、IDL (Interessengemeinschaft der deutschsprachigen Lehrenden in Japan)

〔研究業績〕

〈翻訳・翻訳書〉

・NHK 街角ピアノ「ベルリン」映像字幕翻訳（2025年7月19日初回放送）

〈研究発表・講演・学会報告〉

・西出佳詩子・林明子「専門分野と外国語の連携 専門分野の学びを支える読解教育の実践」中央大学人文学研究所公開研究会 多言語話者の言語知識チーム 大学教育における多分野間協働の可能性ー専門分野と学術ドイツ語とのクロスロードー（2025年11月8日 於：中央大学多摩キャンパス）

・Nishide Yoshiko, Hayashi Akiko „Analytische Lesefähigkeiten“ erwerben: Akademisches Lesen im Rahmen der Hochschulbildung (30. DaF-Seminar, am 17. März. 2026, Kyoto)

〈調査活動〉

・調査活動のテーマ「専門分野の学びを支える読解教育の実践」：2024年度春夏学期開講「ドイツ語中級」の受講者にフォローアップインタビューを実施し、上述の中央大学人文学研究所公開研究会にて発表した。

・調査活動のテーマ「専門分野の学びを支える読解教育の実践」：2025年度秋冬学期開講「ドイツ語中級」の受

講者から得た自由記述文を分析対象にドイツ語テキストの分析的読みの習得状況を調査し、上述の第 30 回日本独文学会ドイツ語教育研究ゼミナール (DaF-Seminar) にて発表した。

[その他の活動]

〈管理運営〉大阪大学言語文化学会委員長、人文学林共通教育部門インターンシップチーム、言語文化研究科言語文化学専攻ドイツ語部会図書・会計委員

〈学会活動〉日本独文学会編集委員

〈社会貢献活動〉Goethe Zertifikat A1, A2 試験官運営協力

バルカ コランタン (BARCAT Corentin) 講師

[教育活動]

〈研究科担当科目〉応用言語学研究 A・B

〈共通教育担当科目〉フランス語初級 I・II、国際コミュニケーション演習 (フランス語)、フランス語中級、フランス語言語文化演習 (中級継続)、地域言語文化演習 (フランス語)

[研究活動]

〈研究テーマ〉言語学、フランス語学、話し言葉コーパス、学習者コーパス、社会言語学、音韻論

〈所属学会〉日本ロマンス語学会、外国語教育学会、日本フランス語学会

[研究業績]

〈論文〉

・ “The use of *hein* in formal and informal spoken French Comparing data from friends or family to politicians’ interviews”、外国語教育研究 (外国語教育学会紀要) 28 号、80-95、2025 年 11 月 10 日。

〈研究発表・講演・学会報告〉

・ « Effacements consonantiques et vocaliques dans le français parlé formel », 国際ワークショップ: « Le français parlé et l’enseignement du FLE au Japon », 大阪大学、2025 年 5 月 24 日。

・ “フランス語での政治家のインタビューと演説における子音・母音・否定辞の脱落 — 話し言葉の生成プロセスが発音にどう影響するのか”、日本ロマンス語学会、2025 年 5 月 18 日。

・ “フォーマルな口頭フランス語におけるヴァリエーション — 大統領のスピーチ(2008-2025)における 選択的リエゾンの実現”、外国語教育学会 (JAFLE)、2025 年 11 月 8 日。

・ “La variation phonologique en français formel : Réductions consonantiques et vocaliques dans les vœux du Président de la République aux Français (1981-2025)”、日本フランス語学会 (SJLF) の 12 月の例会、2025 年 12 月 6 日。

・ “アカデミックなフランス語における談話標識の *hein* の使用に関して”、ワークショップ: “学習者言語・談話標識研究”、青山学院大学、2025 年 12 月 7 日。

〈主たる実施者となって開催した研究会〉

・ 国際ワークショップ: « Le français parlé et l’enseignement du FLE au Japon », 大阪大学、2025 年 5 月 24 日。

LEE SHZH-CHEN NANCY 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉応用言語学研究 A・B

〈共通教育担当科目〉総合英語 (Academic skills、Performance workshop)

[研究活動]

〈研究テーマ〉英語スピーキング能力発達、スピーキング自己効力感、教員自己効力感、L2 及び L3 習得に関する研究、多言語教育

〈所属学会〉大学英語教育学会、全国語学教育学会、大阪大学言語文化学会、SIETAR

[研究業績]

〈論文〉

- ・ Lee, N. S. C. (2025). A collaborative journey: Practical report on a joint research project with graduate students
『言語文化共同プロジェクト 2024 応用言語学における理論と実践 - 研究と教育を通して』, pp. 9-16. 大阪大学言語文化研究科.
- ・ Lee, N. S. C. (2025). Developing English speaking proficiency in Japan: conceptualization, measurement, and challenges. In P. Clark, K. Ballou, & R. Derrah (Eds.), Proceedings of the Asian Conference for Innovation in Education, 4, 53-60.
<https://www.conferencesbyteachers.com/conference-proceedings-2025>
- ・ Morén, A., Ekestorm, O., Atkins, A., Kawabata, E., & Lee, N. S. C. (2025). Comparing the effects of AI and machine translation feedback on ESL writing. In P. Clark, K. Ballou, & R. Derrah (Eds.), Proceedings of the Asian Conference for Innovation in Education, 4, 72-83. <https://www.conferencesbyteachers.com/conference-proceedings-2025>
- ・ Ogawa, C., Lee, N. S. C., & Xia, S. (2026). Assessing L2 Japanese speaking in role-play tasks on an online meeting platform. Digital Applied Linguistics, 4, 1-30. doi.org/10.29140/dal.2026.103204
- 〈研究発表・講演・学会報告〉
- ・ Lee, N. S. C. (2025, July). EFL learners' evaluation of speaking communicative adequacy. HAAL Conference. KongKong.
- ・ Lee, N. S. C., & Teeter, J. (2025, July). Learner perception and measurement of EFL communicative adequacy. AsiaTEFL Conference. HongKong.
- ・ Lee, N. S. C. (2025, Sept). Learner evaluation of speaking proficiency: communicative adequacy in the EFL context. CUE SIG Conference. Tokyo.
- ・ Lee, N. S. C. (2025, Oct). Motherhood without borders: Choosing single parenthood as a foreign woman in Japan. Living on the Edge: Shifting Identities. Kyoto.
- ・ Lee, N. S. C. (2025, Oct). Evaluating EFL speaking communicative adequacy: Through learner perspectives. 50th Annual International Conference on Language Teaching and Learning & Educational Materials Exhibition. Tokyo.
- ・ Lee, N. S. C. (2025, Nov). Learner evaluation of speaking proficiency: Evaluating EFL communicative adequacy. PALT 2025 International Conference (Philippine Association for Language Teaching). Manila, Philippines.
- ・ Lee, N. S. C., Gay I Avellanet, A., Wang, J. H., Sato, Y., & Xu, C. (2026, Jan). Learning and implementing TBLT: A task-based project in a graduate applied linguistics course. Topics in TBLT 1: Materials Design in Task-Based Language Teaching, Okinawa.

・ Lee, N. S. C. (2026, Jan). Evaluating EFL speaking performance: Comparing communicative adequacy, degree of comprehensibility, overall communicative effectiveness and communication ability. 45th Thailand TESOL International Conference. Bangkok, Thailand.

・ Lee, N. S. C. (2026, March). Learner perceptions and evaluations of communicative adequacy in the EFL classroom. AAAL (American Association For Applied Linguistics) Conference, Chicago, USA.

〈研究助成〉

・ 日本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究 (C) 課題番号 21K00786 「Evaluating communicative adequacy in English speaking – development and validation of rater evaluation rubric」 2021 年度～2025 年度 (研究代表者)

[その他の活動]

〈管理運営〉 マルチリンガル教育センター カリキュラム委員

〈学会活動〉 JALT national conference abstract reviewer

【理論言語学・デジタルヒューマニティーズ講座】

越智 正男 (OCHI Masao) 教授

<https://sites.google.com/site/masaoochi>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 理論言語学 A・B (統語論)、理論言語学特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉 総合英語 (Liberal Arts & Sciences)、総合英語 (Content-based English)、学問への扉

[研究活動]

〈研究テーマ〉 格の交替現象, 名詞句の統語構造、wh 疑問構文

〈所属学会〉 日本言語学会、日本英語学会、関西言語学会

[研究業績]

〈論文〉

・ Ochi, Masao (2025) “On the Syntax of Associative Plural Markers in Chinese and Japanese,” *Proceedings of the Thirty-sixth Western Conference on Formal Linguistics (WECOL2024)*, 155–166, California State University, Fresno.

・ 越智正男 (2025) 「日本語と中国語の複数形態素と類別詞表現の共起に関する考察」『言語文化共同プロジェクト 2024 自然言語への理論的アプローチ』, 12-20. 大阪大学人文学研究科言語文化学専攻.

〈研究発表・講演・学会報告〉

・ Ochi, Masao (2025) Plurality, Anti-Labeling, and NP/DP Languages. Paper presented at Western Conference on Linguistics 2025 (WECOL2025), November 22, 2025 (via Zoom).

〈研究助成〉

・ 科学研究費補助金 基盤研究 (C) 研究代表者: 「生成文法におけるラベリング理論に基づく名詞項構造の統語研究」日本学術振興会 (令和 6 年 4 月 ~)

〈国際共同研究実施状況〉

- ・日本学術振興会研究拠点形成事業「自然言語の構造と獲得メカニズムの理解に向けた研究拠点形成」、分担者
- [その他の活動]

〈管理運営〉人文学研究科言語文化学専攻 副専攻長

〈学会活動〉関西言語学会編集委員会委員長 (2024 年 4 月 ~)、Journal of East Asian Linguistics Editorial Board (2021 年 1 月 ~)、日本言語学会評議員 (2021 年 4 月 ~)、日本言語学会倫理委員会委員 (2025 年 10 月~)、GLOW in Asia for Young Scholars 大会実行委員会委員 (2025 年 8 月~2026 年 3 月)

黄 晨雯 (HUANG Chenwen) 助教

[教育活動]

〈共通教育担当科目〉中国語初級 I・II

[研究活動]

〈研究テーマ〉中日間ウェブ小説のメタデータに基づく言語特徴とトレンドの比較分析

〈所属学会〉言語処理学会、情報処理学会、Japanese Association for Digital Humanities

[研究業績]

〈論文〉

- ・GraphRAG による日本語文学テキストの知識グラフ分析：江戸川乱歩『D 坂の殺人事件』を事例として
 - ・Cross-Cultural Detective Narratives:A Topic-Modeling Comparison of the Huo Sang and Sherlock Holmes Series
- 〈研究発表・講演・学会報告〉
- ・AI で読む『小説家になろう』：Transformer による物語ジャンルの可視化と分類, Japan Open Science Summit 2025, 2025 年 6 月
 - ・Cross-Linguistic Topic Detection and Analysis in the Metadata of Popular Chinese and Japanese Web Romance Novels, 11th International Conference on Computational Social Science, 2025 年 7 月
 - ・Cross-Cultural Detective Narratives:A Topic-Modeling Comparison of the Huo Sang and Sherlock Holmes Series, Japanese Association for Digital Humanities 2025, 2025 年 9 月
 - ・跨文化偵探叙事的主题建模比较 ——以霍桑探案与福尔摩斯系列为例, “人文智变：数字人文的智慧奇点”学术研讨会暨 2025 年中国数字人文年会 (CDH2025) , 2025 年 11 月
 - ・大規模言語モデルを使った日中同形語類似度判別の試み, コーパスと言語変異研究会(英語コーパス学会 SIG), 2026 年 3 月
 - ・共通意味空間に基づく日中ウェブ小説あらすじのトピック構造分析, 第 267 回情報処理学会 自然言語処理(NL)研究発表会, 2026 年 3 月

〈研究助成〉

- ・研究スタート支援

[その他の活動]

〈学会活動〉大阪大学言語文化学会事務局担当

鈴木 大介 (SUZUKI Daisuke) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 史的言語研究 A・B

〈共通教育担当科目〉 総合英語 (Liberal Arts & Sciences)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 英語副詞における形式と機能の関係、英語語法文法、英語史

〈所属学会〉 英語コーパス学会、英語語法文法学会、英語史研究会、大阪大学言語文化学会、関西言語学会、京大英文学会、近代英語協会、日本英語学会、日本英文学会、日本言語学会、日本語用論学会

[研究業績]

〈研究助成〉

・「英語副詞の形式と機能に関する共時的・通時的研究」日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究（研究代表者）課題番号：22K13140

[その他の活動]

〈管理運営〉 研究企画推進委員会委員

〈学会活動〉 日本英文学会関西支部編集委員、京大英文学会評議員

〈社会貢献活動〉 放送大学大阪学習センター非常勤講師

田畑 智司 (Tabata, Tomoji) 教授

<http://www.lang.osaka-u.ac.jp/~tabata/>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 デジタルヒューマニティーズ（テキスト分析論）A/B, デジタルヒューマニティーズ特別研究

〈共通教育担当科目〉 総合英語(Content-Based)

〈学部教育担当科目〉 デジタルヒューマニティーズ a/b, 学問への扉（マチカネゼミ）「ことばと文化のデータサイエンス：デジタルヒューマニティーズへの扉」

[研究活動]

〈研究テーマ〉 Digital Humanities (デジタルヒューマニティーズ), Stylometry, Authorship Attribution, 機械学習を応用した近・現代英語散文の文体研究, Forensic Analysis of Texts

〈所属学会〉 The Alliance of Digital Humanities Organizations (ADHO), The European Association for Digital Humanities (EADH), Association for Computers and the Humanities (ACH), Canadian Society for Digital Humanities / Société canadienne des humanités numériques (CSDH/SCHN), Australasian Association for Digital Humanities (aaDH), Japanese Association for Digital Humanities (JADH: 日本デジタルヒューマニティーズ学会), The Poetics and Linguistics Association (PALA), Dickens Fellowship, Dickens Society, 英語コーパス学会, 情報処理学会人文学とコンピュータ研究会(SIG-CH)

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

・田畑 智司 編『テキストマイニングとデジタルヒューマニティーズ2024』（大阪大学大学院人文学研究科言語文化学専攻 言語文化共同研究プロジェクト2024 成果報告書）2025 年。

〈論文〉

・田畑 智司「学術交流基盤としてのデジタルヒューマニティーズ」復旦大学日本研究センター国際シンポジウム『AI時代のデジタル・ヒューマニティーズと日中学術交流 論集』 2025 年.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・Tomoji Tabata, When the humanities meets digital: Cultural assets, heritage, innovation, and hidden values of the humanities, The Italian Higher Education System at Expo 2025 Osaka Roundtable on the Humanities, The 1st Italian and Japanese Rectors' Forum, 29 May 2025, Italy Pavilion. (招待講演)

・田畑 智司「Word embeddings による文体研究の可能性」. 日本英文学会第 97 会大会シンポジウム「デジタル・ヒューマニティーズの発展可能性：英文学研究における現在地」 2025 年 5 月 31 日.

・田畑 智司「学術交流基盤としてのデジタルヒューマニティーズ」復旦大学日本研究センター国際シンポジウム「AI時代のデジタル・ヒューマニティーズと日中学術交流」 2025 年 11 月 22 日. 復旦大学 (招待講演)

〈研究助成〉

・2023–2025 年度科学研究費補助金基盤研究(C)「英米文学作品における歴史的文体研究としての英語表現史研究：身体表現の機能の解明」研究分担者 (研究代表者：安田女子大学・高口 圭輔)

〔その他の活動〕

〈主たる実施者となって開催した学会〉

・英語コーパス学会第 51 回大会, 2025 年 9 月 2–3 日, 大阪大学箕面キャンパス

・JADH2026: Rethinking the Border between Informatics and the Humanities (The 14th Japanese Association for Digital Humanities International Conference), 2025 年 9 月 19–21 日, 大阪大学豊中キャンパス・箕面キャンパス

〈主たる実施者となって開催した研究会〉研究会の名称、開催日、開催場所を記載する。

・テキストマイニングとデジタルヒューマニティーズ研究会, 毎月開催, 大阪大学大学院人文学研究科デジタルヒューマニティーズ・ラボおよびオンラインのハイブリッド開催

〈学会活動〉President of the Japanese Association for Digital Humanities, 英語コーパス学会会長

中山 拓人 (NAKAYAMA Takuto) 講師

〔教育活動〕

〈共通教育担当科目〉総合英語 (Liberal Arts & Sciences)

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉言語の複雑さ計測、及びそれに情報理論、微分幾何学を用いた言語の数理モデル化

〈所属学会〉言語処理学会、社会言語科学会、国際計量言語学会

〔研究業績〕

〈編著〉

・中山拓人. (2026). 「意味の豊かな/質素な言語使用—分散意味論と情報理論から見る多義性の様相—」 宮寄由美, 八木橋宏勇(編)『響き合うことばと社会』開拓社 (pp. 58–71).

〈研究発表・講演・学会報告〉

・中山拓人. (2026, March 12). トポロジー的視点による言語の複雑さの考察. [ポスター発表] 言語処理学会第 32 回年次大会.

・Nayayama, Takuto. (2025, June 27). *On Linguistic Complexity: Form-Meaning Pairing Through Subword Token Polysemy* [oral presentation]. Quantitative Linguistics Conference 2025, Brno, Czech Republic.

ホドシチェク ボル (HODOŠČEK Bor) 准教授

<https://nlp.lang.osaka-u.ac.jp/>

〔教育活動〕

〈研究科担当科目〉 デジタルヒューマニティーズ A・B、デジタルヒューマニティーズ特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉 総合英語 (Performance Workshop)

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉 自然言語処理、デジタルヒューマニティーズ、コーパス言語学、ウェブシステム、日本語学習支援システム

〈所属学会〉 言語処理学会、Japanese Association for Digital Humanities (JADH)、情報処理学会、計量国語学会

〔研究業績〕

〈研究発表・講演・学会報告〉

・Hilofumi Yamamoto, Bor Hodošček. “Transforming Poetic Thought into Waka: How to Pack the Skeleton into a 31-Syllable Closet”. PLOTTING POETRY 8: Skeletons in the Closet, 2025 年 6 月 17 日, 国際会議, 査読有り, 口頭発表.

・Bor Hodošček, Andrej Bekeš, Kikuko Nishina, Takeshi Abekawa. “Co-occurrence of Sentence-initial Connectives and Sentence-final Expressions in Japanese Academic Prose from a Pragmatic Perspective”. The Fourth EAJS (European Association for Japanese Studies) Conference in Japan, 2025 年 9 月 21 日, 国際会議, 査読無し, 口頭発表.

・Hilofumi Yamamoto, Bor Hodošček, Xudong Chen. “Translating Ise Monogatari through the Lens of Process Grammar Model: A Bilingual and Structured Approach to Classical Japanese Narratives”. Proceedings of the 14th Conference of Japanese Association for Digital Humanities (JADH2025), 110-112, 2025 年 9 月 20 日, 国際会議, 査読無し, ポスター発表.

・陳 旭東, ホドシチェク ボル, 山元 啓史. “語彙プロファイルに見られる八代集における変化”. 人文科学とコンピュータシンポジウム 2025 論文集, 381-388, 2025 年 12 月 14 日, 国内会議, 査読無し, ポスター発表.

・陳 宇鎔, Bor Hodošček. “どのような文が一般社会とも共有されるのか?—文埋め込みを用いた人工知能関連テキストの分析—”. 言語処理学会第 32 回年次大会発表論文集, 3940-3945, 2026 年 3 月 12 日, 国内会議, 査読無し, ポスター発表.

・王 簫影, Bor Hodošček. “サプライザルと読み時間からみた日本語リーダビリティの分析”. 言語処理学会第 32 回年次大会発表論文集, 3904-3909, 2026 年 3 月 12 日, 国内会議, 査読無し, ポスター発表.

〈編著〉 (単独の編者によるもの)

・Andrej Bekeš, Bor Hodošček, Kikuko Nishina, Takeshi Abekawa, Jinbo Wang. “Co-occurring connectives: A corpus study of formulaicity as spontaneously arising means to reduce disfluency in Japanese written discourse”. *Disfluencies We Live with in Japanese: An Interdisciplinary Approach*, 86-104, Routledge, 2026 年 3 月 10 日, 分担執筆, DOI: 10.4324/9781003648369.

〈研究助成〉

・基盤研究(C)『アカデミックライティングのための接続表現と文末表現の共起分析と学習支援への活用』(2023-

2026) (研究課題番号 23K00629) 研究代表者

・基盤研究(C)『歌ことばの歴史の変遷の特徴を解析するツール群とデータセットの開発』(2023-2026) (代表 :

山元啓史) (研究課題番号 23K00545) 研究分担者

[その他の活動]

〈管理運営〉 部局情報システムセキュリティ責任者、部局 CSIRT、部局ネットワーク運用管理責任者、コンテンツ管理委員長、部局キャンパスメールサービス管理者、人文学林ネットワーク部門長

〈社会貢献活動〉 大阪大学体育会アイスホッケー部顧問

三宅 真紀 (MIYAKE Maki) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 デジタルヒューマニティーズ A・B (データ解析)

〈共通教育担当科目〉 総合英語 (Content-Based English) , 総合英語 (Project-Based English)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 計算言語学、コーパス言語学、新約聖書学

〈所属学会〉 Japanese Association for Digital Humanities (JADH: 日本デジタルヒューマニティーズ学会)

[その他の活動]

〈管理運営〉 マルチリンガル教育センター派遣、データビリティフロンティア機構兼任、ネットワーク運用管理委員会委員

宮本 陽一 (MIYAMOTO Yoichi) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 言語情報科学特別研究 A・B

[研究活動]

〈研究テーマ〉 Temporal Adverbial Clauses の統語構造, N'-ellipsis の統語メカニズム, Operators の L2・L3 獲得

〈所属学会〉 日本英語学会, 日本言語学会, 関西言語学会, Linguistic Society of America (LSA)

[研究業績]

〈論文〉

・ Nakamura, Chie, Suzanne Flynn, Yoichi Miyamoto and Noriaki Yusa. Incremental or Delayed Processing? L2 Learners' Active Gap-filling in Sentence Comprehension. *Proceedings of the Linguistic Society of America* 2025, <https://doi.org/10.3765/plsa.v10i1.5888>, 04/2025.

・ Maeda, Masako, Shiori Ikawa, Akitaka Yamada and Yoichi Miyamoto. Different Short Answers in Japanese: Functionally Similar but Syntactically Different. *Journal of East Asian Linguistics* 34 (2), 319-341, 06/2025.

・ Matsumoto, Ayumi, Kyoko Yamakoshi, Koji Sugisaki Yoichi Miyamoto and Ayaka Sugawara. Children's Sensitivity to the Island Effects in Japanese Cleft Constructions. *Japanese/Korean Linguistics* 31, 70-80, 08/2025.

・ Maeda, Masako, Hiromune Oda and Yoichi Miyamoto. The Phonological Analysis of Left Branch Extraction in Japanese. *Japanese/Korean Linguistics* 31, 241-249, 08/2025.

• Sugimura, Mina and Yoichi Miyamoto. Two Types of V-ni V Formation: The Role of ni and its Interaction with Focus and Aspect. *Proceedings of The 27th Seoul International Conference on Generative Grammar*, 261-270, 08/2025.

• Sugimura, Mina and Yoichi Miyamoto. Restructuring and Focus in Japanese. *Journal of Japanese Linguistics* 41 (2), 197-238, 10/2025.

• Nakamura, Chie, Suzanne Flynn, Yoichi Miyamoto and Noriaki Yusa. Proximity Loses: Real-Time Resolution of Ambiguous Wh-Questions in Japanese. *Languages* 10 (288), <https://doi.org/10.3390/languages10120288>, 11/2025.

• Nakamura, Chie, Suzanne Flynn, Yoichi Miyamoto and Noriaki Yusa. Lexical vs. Structural Cue Use in L2 Prediction: Filler-gap Parsing Ability Shapes Learners' Information Use. *Frontiers in Language Sciences*, <https://doi.org/10.3389/flang.2026.1756463>, 03/2026. (Press Release: まだ言われていないのに、もう見ている – Global Research Center (GRC) 早稲田大学 研究活動).

〈研究発表・講演・学会報告〉

• Oda, Hiromune, Yuta Tatsumi and Yoichi Miyamoto. Weak Heads at the Interface: A Crosslinguistic Investigation of Temporal Adverbial Clauses. 第97回日本英文学会シンポジウム, (oral presentation/invited talk), 05/31/2025, University of Tokyo.

• Nakamura, Chie, Suzanne Flynn, Yoichi Miyamoto and Noriaki Yusa. Comparing the Processing of Wh-Questions in Japanese-English Bilinguals: A Cross-Linguistic Eye-Tracking Study. The 15th International Symposium on Bilingualism, (oral presentation), 06/13/2025, Donostia-San Sebastián, Spain.

• Moritake, Nozomi and Yoichi Miyamoto. On the Argumenthood of Quotes in Japanese: A Study of Argument Doubling. Japanese/Korean Linguistics Conference 32, (poster presentation), 06/14/2025, Cornell University.

• Maeda, Masako, Yangyu Sun, Shiori Ikawa, Akitaka Yamada and Yoichi Miyamoto. A Labeling Analysis of Apparent NP-Ellipsis in Chinese and Japanese. The 31st Annual Conference of the International Association of Chinese Linguistics, (oral presentation), 07/03/2025, Ca' Foscari University.

• Sugimura Mina and Yoichi Miyamoto. Two Types of V-ni V Formation: The Role of ni and its Interaction with Focus and Aspect. The 27th Seoul International Conference on Generative Grammar, (poster presentation), 08/14/2025, Sogang University.

• Nakamura, Chie, Suzanne Flynn, Yoichi Miyamoto and Noriaki Yusa. Filler-gap Resolution in Cross-linguistic Wh-questions: L2 English and L1 Japanese. The 17th Generative Approaches to Language Acquisition Conference, (oral presentation), 09/12/2025, The City of Creation and Innovation (MAME), Tours.

• Moritake, Nozomi and Yoichi Miyamoto. Nominative Object Licensing in Kumamoto Dialect and its Implications, 2026 Joint Seminar on Miracle Creed New Horizons of Linguistics in the Humanities, (oral presentation), 01/09/2026, Online.

〈研究助成〉

• 研究拠点形成事業 (A. 研究拠点形成型: 研究代表者) 「自然言語の構造と獲得メカニズムの理解に向けた研究拠点形成」 日本学術振興会 (04/2021–03/2026).

• 科学研究費補助金 (基盤研究 S: 研究分担者) 「人間の記号処理能力の基盤を探る一言語の形式と意味をつなぐ認知神経システムの解明」 日本学術振興会 (04/2023–03/2028).

• 科学研究費補助金 (基盤研究 C: 研究代表者) 「「大併合」操作に基づく量化に関する比較統語論的研究」 日本学術振興会 (04/2023–03/2027).

・科学研究費補助金（基盤研究 C：研究分担者）「移動／線削除に伴う空所の認可条件に関する理論的・実証的研究」日本学術振興会（04/2023－03/2027）.

〈国際共同研究実施状況〉

・ERC Synergy Grant Horizon 2020：Excellent Science（European Research Council：研究協力者）「Realizing Leibniz's Dream: Child Languages as a Mirror of the Mind」(01/2021－12/2026).

・研究拠点形成事業（A. 研究拠点形成型：研究代表者）「自然言語の構造と獲得メカニズムの理解に向けた研究拠点形成」(04/2021－03/2026).

〈分野横断的研究実施状況〉

・研究拠点形成事業「自然言語の構造と獲得メカニズムの理解に向けた研究拠点形成」，プロジェクト実施ならびに事業統括（理論言語学者、心理学者参画），アウトカム等：<https://www.ctc.lang.osaka-u.ac.jp/> 参照.

・自然言語の構造構築における二項分岐について，プロジェクト実施（理論言語学者、脳神経学者、生物学者参画）.

・科学研究費補助金（基盤研究 S）「人間の記号処理能力の基盤を探る-言語の形式と意味をつなぐ認知神経システムの解明」，科研分担者（代表者：酒井 弘教授（早稲田大学））（理論言語学者、脳神経学者、心理言語学者、心理言語学者参画）.

〈主たる実施者となって開催した研究会〉

・研究拠点形成事業「自然言語の構造と獲得メカニズムの理解に向けた研究拠点形成」第 1 回言語学国内シンポジウム, 03/21-22/2026, 大阪大学.

[その他の活動]

〈管理運営〉理事・副学長, 附属図書館長

〈学会活動〉日本言語学会評議員, 日本言語学会常任委員, 日本英語学会評議員, Journal of Monolingual and Bilingual Speech Editorial Board

〈社会貢献活動〉日本学術会議 連携会員, Higher Education Advisory Council (HEAC) Japan Council Member (Cambridge International Education), American Council on Education (ACE) Japan Higher Education Executive Fellow

八木 堅二 (YAGI Kenji) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉史的言語学

〈共通教育担当科目〉中国語初級・中国語中級・国際コミュニケーション演習（中国語）

[研究活動]

〈研究テーマ〉中国語方言地理学

〈所属学会〉日本中国語学会・日本地理言語学会・日本音声学会

[研究業績]

〈論文〉

・漢藏語歴史言語地図集—“鶏”の漢語部分（稿）『地理言語学研究』モノグラフ『中国語歴史地理研究』12(2) 77-91 2025 年 11 月

・漢藏語歴史語言地図集—“馬”的漢語部分（稿）『地理言語学研究』モノグラフ『中国語言歴史地理研究』
12(2) 62-76 2025 年 11 月

〈研究発表・講演・学会報告〉

・「《汉藏语历史语言地图集》—“鼠”、“熊”、“狗”、“狼”、“月”的汉语部分」（稿）中国语言历史地理
研究论坛 2026 2026 年 2 月 28 日

・「中国語方言学における一次データの収集と分析——言語地理学とフィールド調査」関西大学総合情報学部講
演会 2025 年 12 月 1 日

・Moon in Sinitic 2025 年 9 月 28 日 The second meeting of “Afro-Eurasian Geolinguistics,”

・「前綴和後綴的交錯」中国文化研究学会国際学術大会 2025 年 5 月 17 日

〈研究助成〉

「中国語方言における音韻・文法・語彙に関する言語類型地理論的研究」日本学術振興会 科学研究費助成事業 基
盤研究(C)研究代表者

「移住と言語接触を視野に入れた漢語全時代形成史の歴史地理言語学的研究」日本学術振興会 科学研究費助成
事業 基盤研究(B)研究分担者

[その他の活動]

〈学会活動〉日本中国語学会大会運営委員・日本地理言語学会世話人

〈社会貢献活動〉関西大学総合情報学部講演

〈市民向け講座・講演〉放送大学講師

山本 武史 (YAMAMOTO Takeshi) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉研究実践基礎、研究発表演習、理論言語学 A・B（音韻論）、理論言語学特別研究 A・B、言
語科学概論（人文社会科学系オナー大学院「言語科学」ユニット、オムニバス形式）、言語科学基礎 1A・B（音・
単語の科学）（人文社会科学系オナー大学院「言語科学」ユニット、オムニバス形式）

〈共通教育担当科目〉総合英語（Liberal Arts & Sciences）

〈学部教育担当科目〉英語 3 (C) (1 年生リスニング)、英語学演習 III a・b (A)（豊中開講）、英語学演習 IV a・b
(A)、英語学特別演習 II a・b (B)、＜兼修＞英語学 I a (G)、＜兼修（高度）＞英語学 I b (G)

[研究活動]

〈研究テーマ〉英語における語の音韻構造（特に、音節構造と強勢）

〈所属学会〉関西言語学会、日本英語学会、日本英文学会（関西支部）、日本音韻論学会、日本音声学会、日本
言語学会、International Phonetic Association

[研究業績]

〈論文〉

・Yamamoto, Takeshi (2025) “Ambisyllabicity in English: Aspiration and pre-fortis clipping” 『音声言語の研究』 19 [言語
文化共同研究プロジェクト 2024] , pp. 55–70, 大阪大学大学院人文学研究科 (<https://hdl.handle.net/11094/102298>)

〈研究助成〉

・日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究（C））「英語における音韻的揺れについて」（22K00603、2022 年度～2025 年度）研究代表者

[その他の活動]

〈管理運営〉ダイバーシティ&インクルージョンセンター会議委員、理論言語学・デジタルヒューマニティーズ講座代表

〈学会活動〉関西言語学会編集委員（副委員長）、『京都大学言語学研究』学外編集委員

ヤン ムイ (YANG Muyi) 准教授

<https://muyiyangym.github.io/>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉理論言語学 A（意味論）、理論言語学 B（意味論）、言語科学概論

〈共通教育担当科目〉総合英語 (Liberal Arts & Sciences)、総合英語 (Academic Skills)

[研究活動]

〈研究テーマ〉形式意味論、語用論、統語・意味インターフェイス

〈所属学会〉日本言語学会

[研究業績]

〈論文〉

・ヤンムイ (2025) A note on reportative evidentials in Qaraqalpaq 『自然言語への理論的アプローチ 言語文化共同研究プロジェクト 2024』 44-50 頁、大阪大学大学院人文学研究科言語文化学専攻、2025 年 5 月出版

〈研究発表・講演・学会報告〉

・田中英理、ヤンムイ、水野輝之、Stephanie Solt、「レモン 3 個分のビタミン C：「分」の意味論」東海関西意味論研究会、口頭発表、神戸大学、2025 年 7 月

・Yang, Muyi (2025) Plurality and distributivity of discourse reference to situations and worlds. Talk at Future Developments in Formal Semantics. Sapporo City University, August 2025.

・Yang, Muyi (2025) The additivity problem of prioritizing modality in Japanese. Talk at UConn Miniworkshop on Modality and Scalarity. University of Connecticut, September 2025.

・Yang, Muyi, Teruyuki Mizuno, Eri Tanaka and Stephanie Solt (2025) Lemons to vitamin C: Mapping between amounts with Japanese bun 'amount'. Talk at Logic and Engineering of Natural Language Semantics (LENLS21). Nagoya University, November 2025.

・Yang, Muyi (2025) An additivity-based analysis of permission: The case of Japanese. Theoretical Linguistics at Keio (TaLK) 2026. Keio University, March 2026.

〈研究助成〉科研費（若手研究）研究代表者、25K16260（日本語拘束モダリティの意味構成に関する形式意味論的研究）

〈国際共同研究実施状況〉日本語の数量表現「ブン」の意味論的分析、研究分担者、共同研究者所属: Leibniz-Zentrum Allgemeine Sprachwissenschaft (ZAS)（ドイツ）、アウトカム: 国内研究会（東海関西意味論研究会）及び国際学会（Logic and Engineering of Natural Language Semantics）において口頭発表

〈主たる実施者となって開催した研究会〉Syntax-Semantics Day in Toyonaka 拠点形成×LCCC×第108回待兼山こ
とばの会、2025年4月28日、大阪大学人文学研究科言語文化学専攻

[その他の活動]

〈学会活動〉Logic and Engineering of Natural Language Semantics (LENLS21)運営委員会、Theoretical Linguistics at Keio
(TaLK) 2026 運営委員会

〈市民向け講座・講演〉「意味」の不思議 ―日本語の名詞接続詞「や」をめぐって―、公開講座『LCセミナー
2025：ことば・文化・学びが出会う場所』、大阪大学大学院人文学研究科言語文化学専攻

葉 晨傑 (YE Chenjie) 講師

[教育活動]

〈研究科担当科目〉理論言語学（統語論）A・B

〈共通教育担当科目〉総合英語 (Academic Skills)、総合英語 (Liberal Arts & Sciences)

[研究活動]

〈研究テーマ〉呉語蕭山方言の記述及び理論的分析、第二言語習得における音声的な考察

〈所属学会〉日本中国語学会、言語記述研究会、朝鮮学会、北方言語学会、言語の類型的特徴対照研究会、日本
言語学会、(韓国) ハングル学会、関西言語学会

[研究業績]

(論文)

- ・葉晨傑、譚坤明 (2025) 「呉語（蕭山方言）の状態表現」『言語の類型的特徴対照研究会論集』8: 159-184.
- ・葉晨傑 (2026) 「呉語蕭山方言（東部小片）：特集補遺データ「受動表現」「アスペクト」「モダリティ」「ヴ
ォイスとその周辺」「所有・存在 表現」「他動性」「(連用修飾的) 複文」「情報構造と名詞述語文」「情報標
示の諸要素」「否定、形容詞と連体修飾複文」」『語学研究所論集』30: 12.

〈研究発表・講演・学会報告〉

- ・葉晨傑 (2025) 呉語蕭山方言の約束、命令、勧誘、京都大学言語学懇話会第126回例会、京都大学、2025年4
月12日。
- ・許秦、葉晨傑 (2025) 中国語母語話者の日本語母音/う/と/お/の産出に対する実験音声学的研究―異なる音韻環
境による影響を中心に―、第7回東アジア日本学研究国際シンポジウム、延辺大学、2025年8月16日。
- ・許秦、葉晨傑 (2025) 日本語母語話者による韓国語母音の聴取に関する聴覚音声学的研究―単母音及び[j]系合成
母音を中心に―、第39回日本音声学会全国大会、神戸大学、2025年9月21日。
- ・許秦(Qin Xu), 叶晨杰(Chenjie Ye) (2025) 以听觉语音学方法探讨日语母语者对普通话爆破音与塞擦音的感知模式
(An acoustic discussion on perception of Mandarin plosives and affricates by Japanese native speakers)、East and West Contact:
5th International Conference of Contemporary China Studies、The Confucius Institute at the University of León、2025年10
月2日。
- ・葉晨傑 (2025) 呉語蕭山方言における形容詞述語と結合する意外性表現、日本中国語学会第75回全国大会、東
北大学、2025年11月9日。
- ・Ye, Chenjie (2025) The cancellability of evidentiality in Xiaoshan, a Wu dialect、The 3rd Conference on Evidentiality and

Its Related Categories、The University of Macau、2025 年 11 月 16 日。

〈調査活動〉

・2025 年 8 月から 9 月に中国浙江省杭州市蕭山区における呉語蕭山方言に対する言語調査

[その他の活動]

〈管理運営〉言語文化学専攻図書委員会委員、言語文化学専攻安全衛生委員会委員（後期）

【言語認知科学講座】

井元 秀剛 (IMOTO Hidetake) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉認知意味理論研究 A・B、言語認知科学特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉フランス語初級 I・II、フランス語初級選択 I・II、フランス語中級、「囲碁」で論理的思考を養おう

〈学部教育担当科目〉フランス語学講義 a

[研究活動]

〈研究テーマ〉メンタルスペース理論による日仏語時制研究

〈所属学会〉日本フランス語学会、日本フランス語フランス文学会、日本英語学会、関西言語学会

[研究業績]

〈主たる実施者となって開催した学会〉関西言語学会第 50 回大会、2025 年 5 月 31 日、6 月 1 日、大阪大学

[その他の活動]

〈学会活動〉関西言語学会大会委員長

〈市民向け講座・講演〉豊中市民カレッジ講師 2025 年 12 月 2 日

大森 文子 (OMORI Ayako) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉認知レトリック論研究 A・B、言語認知科学特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉総合英語 (Liberal Arts & Sciences)、英語選択

[研究活動]

〈研究テーマ〉認知詩学

〈所属学会〉日本英文学会、日本英文学会関西支部、日本英語学会、日本認知言語学会

[研究業績]

〈論文〉

・「愛する人と自らと：シェイクスピアの *Sonnets* における関係性のメタファー」『“The Rhetoric IS the Message”
「レトリックはメッセージである」—修辞・意味・認知の関わり—（言語文化共同研究プロジェクト 2024）』pp.
1-15. アンドリュウ・村上スミス編、大阪大学大学院人文学研究科、2025 年 5 月

〈研究発表・講演・学会報告〉

・「成田義光先生から学んだ日々」『鼎談 成田義光先生を偲んで』阪大英文学会第 58 回大会（於：大阪大学）、2025 年 10 月 25 日

・「『概説レトリック』を楽しもう—実践の試み—」『レトリック・比喩研究の現在とこれから—『概説レトリック』刊行記念合評会—』（於：大阪大学）、2025 年 12 月 13 日

〈研究助成〉

・科学研究費助成金基盤研究(C) (2024-2027) 「英語メタファーの認知詩学 III」 （研究代表者）

[その他の活動]

〈管理運営〉（研究科）人文学林学術誌部門・『人文学林』編集チームリーダー、人文学林学術誌部門・紀要編集チーム委員、（専攻内）言語認知科学講座代表者、入試委員会委員、部会主任会議委員、財務会計委員会委員、紀要編集委員会委員長

〈学会活動〉日本認知言語学会編集委員

木本 幸憲 (KIMOTO Yukinori) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉認知言語学研究 A/B

〈学部教育担当科目〉英語 2A、英語 3B、英語 13C、英語学講義 a/b、英語学特別演習 Va/b、

[研究活動]

〈研究テーマ〉フィリピン諸言語の記述研究、言語類型論、認知言語学、社会言語学

〈所属学会〉日本言語学会、日本語用論学会、日本認知言語学会、社会言語科学会

[研究業績]

〈論文〉

・ Evans, Nicholas, Danielle Barth, I Wayan Arka, Henrik Bergqvist, Christian Döhler, Sonja Gipper, Yukinori Kimoto, Dominique Knuchel, Daniel Majchrzak, Hitomi Ono, Eka Pratiwi, Saskia Van Putten, Andrea C. Schalley, Asako Shiohara, Stefan Schnell, and Yanti (2026) Is complementation a universal strategy? A cross-linguistic corpus study, *Linguistic Typology at the Crossroad*, 5(2): 66–104, 2026 年 2 月.

・ 木本幸憲（2026）「国家、民族、言語—多言語社会が我々に教えてくれること—」野林厚志（編著）『国家と民族の行方—制度と実践がもつれ合う現在—』明石書店, pp.295–304, 2026 年 3 月.

・ 木本幸憲（2025）「ダイクシスと共有知識、共同注意—アルタ語（フィリピン）の指示詞の使い分けについて—」『日本語用論学会 第 27 回大会発表論文集 20』pp.52–59 2025 年 7 月.

〈研究発表・講演・学会報告〉

・ Kimoto, Yukinori (2025) The Arta and Agta languages from a linguistic perspective. *Research Conference on the Aborigines of Quirino Voices of the Land: Honoring Indigenous Language, Culture and Resilience* (online), 2025 年 10 月.

〈研究助成〉

・ 日本学術振興会 科学研究費助成事業（若手研究）「フィリピン諸言語の存在文とその関連構文に見られる文法的バリエーション」 2025 年 4 月～2030 年 3 月、研究代表者

・日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(B)「インドネシア諸語とフィリピン諸語間における形態・統語的特徴の変遷の研究」2025年4月～2030年3月、研究分担者（研究代表者：内海 敦子）

〈主たる実施者となって開催した研究会〉

・「レトリック・比喩研究の現在とこれから―『概説レトリック』刊行記念合評会―」2025年12月13日、大阪大学箕面キャンパス 外国学研究講義棟 603 講義室

・「第12回大阪言語学談話会」2025年7月5日、大阪大学 豊中キャンパス言語文化A棟 2階大会議室

[その他の活動]

〈管理運営〉研究企画推進委員会委員、広報・社会貢献検討委員会委員、教務委員（外国語学部英語専攻）

〈学会活動〉日本語用論学会評議員、日本語用論学会広報委員会副委員長、社会言語科学会企画委員、日本認知言語学会編集委員会委員、日本言語学会広報委員会委員

小薬 哲哉 (KOGUSURI Tetsuya) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉認知言語学研究A、言語認知科学特別研究A

〈共通教育担当科目〉総合英語（Project-based English）、学問への扉（ことばと意味の探検）

[研究活動]

〈研究テーマ〉構文文法理論、認知言語学、語彙意味論、並列構造理論

〈所属学会〉日本英語学会、日本語文法学会、日本言語学会、日本認知言語学会、関西言語学会、英語語法文法学会、筑波英語学会、大阪大学言語文化学会

[研究業績]

〈編著〉

・眞野美穂・江口清子・小薬哲哉・于一楽（編）(2025)『レキシコン研究の広がりと深まり』, 大阪：大阪大学出版

〈論文〉

・Kogusuri, Tetsuya (2026) “‘At-dative’ alternation with event nominal *look*: Interplays between verbal and nominal semantics,” *Proceedings of the International Argument Alternation Workshop*, 48-58.

・眞野美穂・小薬哲哉・江口清子・于一楽 (2025)「序章」眞野美穂・江口清子・小薬哲哉・于一楽（編）『レキシコン研究の広がりと深まり』, 1-11, 大阪：大阪大学出版

・小薬哲哉 (2025)「get a look の語彙意味論：give a look との比較を通して」眞野美穂・江口清子・小薬哲哉・于一楽（編）『レキシコン研究の広がりと深まり』, 235-252, 大阪：大阪大学出版

・小薬哲哉 (2025)「英語の軽動詞構文研究の進展と課題（1）」『言語文化共同研究プロジェクト2024 認知・機能言語学研究X』, 4-23.

・小薬哲哉 (2025)「言語文化共同研究プロジェクト「認知・機能言語学研究X」の目的と活動」『言語文化共同研究プロジェクト2024 認知・機能言語学研究X』, 1-3.

〈研究発表・講演・学会報告〉

・Kogusuri, Tetsuya (2025) “‘At-Dative’ Alternation with Event Nominal *Look*: Interplays between Verbal and Nominal

Semantics,” International Argument Alternation Workshop, 16th July, Kobe University.

〈研究助成〉

- ・科学研究費補助金基盤研究（C）2025 年度-2028 年度「名詞を中心とする視覚行為表現と事態把握の日英対照研究」課題番号 25K04041、研究代表者：小薬哲哉

〈主たる実施者となって開催した研究会〉

- ・第 1 回大阪認知言語学研究会 2025 年 7 月 20 日オンライン（Zoom）
- ・第 2 回大阪認知言語学研究会 2025 年 8 月 26 日オンライン（Zoom）
- ・第 3 回大阪認知言語学研究会 2025 年 9 月 15 日ハイブリッド（大阪大学大学院人文学研究科言語文化 B 棟大会議室 B・Zoom）
- ・第 4 回大阪認知言語学研究会 2026 年 3 月 13 日オンライン（Zoom）

〔その他の活動〕

〈管理運営〉

〈学会活動〉関西言語学会編集委員、日本語文法学会編集委員

高橋 克欣 (TAKAHASHI Katsuyoshi) 准教授

〔教育活動〕

〈研究科担当科目〉言語認知科学論 A・B (Language and Cognitive Science A・B)

〈共通教育担当科目〉フランス語中級 (Intermediate French)

〈学部教育担当科目〉フランス語 3 (French3)、フランス語 1 5 (French15)、フランス語学講義 a・b (French Linguistics a・b)、フランス文化演習 IVa・IV b (French Culture IVa・IV b)

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉フランス語学、言語学

〈所属学会〉日本フランス語フランス文学会、日本フランス語学会、日本フランス語教育学会

〔研究業績〕

〈論文〉

- ・「翻訳 AI・生成 AI を用いた中級フランス語授業一どのように行い、評価するか」Rencontres 39.

〈研究助成〉

- ・翻訳 AI・生成 AI による自律性支援と学習者の動機づけ（基盤研究（C）研究分担者）

〔その他の活動〕

〈管理運営〉人権問題委員会、キャンパス・ハラスメント問題小委員会委員長、フランス語部会主任

〈学会活動〉日本フランス語学会編集委員

田村 幸誠 (TAMURA Yukishige) 教授

〔教育活動〕

〈研究科担当科目〉認知意味論研究 A・B、言語認知科学特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉学問への扉、欧米言語文化研究入門 B

〈所属学会〉日本認知言語学会、日本英語学会、関西言語学会、日本言語学会、日本語用論学会、大阪大学言語文化学会

〔研究業績〕

〈論文〉

・中畠浩貴 (2026) 「語形成における言語フレームと認知フレームの接点—英語における身体部位名詞由来-er 名詞の事例研究—」『日本認知言語学会論文集』 26: 115-127.

・中畠浩貴 (2026) 「英語における自然物名詞由来 er 名詞についてのコーパス研究—フレーム意味論からのアプローチ—」『神戸言語学論叢』 15: 75-93.

〈研究発表・講演・学会報告〉

・中畠浩貴 (2025) 「語形成における言語フレームと認知フレームの接点 —英語身体部位名詞由来 -er 名詞に関する事例研究—」. 日本認知言語学会第 26 回全国大会. 2025 年 8 月 30 日.

・中畠浩貴 (2025) 「英語名詞由来 er 名詞の コーパス研究：身体部位名詞と自然物名詞の比較を通して」. 第 3 回名古屋認知言語学研究会. 2025 年 9 月 16 日.

〈研究助成〉

・日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究 2022 年 4 月-2026 年 3 月 (課題番号：22K13137、研究課題名：英語名詞由来 er 名詞の実証的・理論的研究：構文とフレームの統合的アプローチ、研究代表者：中畠浩貴 (大阪大学)) ※研究代表者

・日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 (B) 2023 年 4 月-2027 年 3 月 (課題番号：23H00629、研究課題名：百科事典の意味論に基づく レキシコンの研究：大規模コーパスを用いた実証的研究、研究代表者：松本曜 (国立国語研究所)) ※研究分担者

〈主たる実施者となって開催した研究会〉研究会の名称、開催日、開催場所を記載する。

・第 12 回 大阪言語学談話会、2025 年 7 月 5 日、大阪大学豊中キャンパス言語文化 A 棟 2F 大会議室

・第 13 回 大阪言語学談話会、2025 年 9 月 7 日、大阪大学豊中キャンパス言語文化 A 棟 2F 大会議室

・第 14 回 大阪言語学談話会、2026 年 3 月 7 日、大阪大学豊中キャンパス言語文化 A 棟 2F 大会議室

〔その他の活動〕

〈管理運営〉ハラスメント相談員、設備・施設マネジメント委員会委員、学生支援委員会委員、言語文化学会会計監事

〈学会活動〉日本認知言語学会大会実行委員、関西言語学会運営委員

〈社会貢献活動〉放送大学非常勤講師 (担当科目：英語初級 I)